

学 習 要 項

第 4 学年

2013



東京女子医科大学
看護学部

目 次

東京女子医科大学の建学の精神、大学の理念	1
看護学部教育理念、教育目的、教育目標、第4学年教育目標	2
授業科目および単位数	3
臨地実習における個人情報保護に関する指針	7

科目別到達目標、講義スケジュール

人間の本質を問う

女性論	9
人間援助論Ⅱ	12

生活している人間の環境

疫学	15
医療行政・関係法規	18
文化人類学	22
人間生活と法	25

健康障害と生活の調整

保健医療行動科学	29
医学特論	32

働きかけの基本 看護活動

地域看護学実習Ⅲ	37
精神看護学実習	40
統合実習	43
コミュニケーションの理論と実際	45

人間性を育む

英語Ⅲ	47
英語Ⅳ	50
パフォーマンス芸術論	54
国際関係論	57

各専門領域への発展

リエゾン精神看護	61
国際看護	63
卒業論文	65
キャリア発達論Ⅳ	67
先端医療における看護	70

養護教諭一種免許課程

教職実践演習（養護教諭）	73
学校保健管理論	75
養護実習	78
日本国憲法	81

第4学年授業担当教員	85
------------	----

カレンダー

東京女子医科大学

I. 建学の精神

東京女子医科大学は、1900年（明治33年）に創立された東京女醫學校を母体として設立された。東京女子医科大学の創立者である吉岡彌生は、1952年（昭和27年）新制大学設立に際し、東京女醫學校創立の主意をもって建学の精神とした。その主旨は、高い知識・技能と病者を癒す心を持った医師の育成を通じて、精神的・経済的に自立し社会に貢献する女性を輩出することであった。新制大学設立時の学則には「医学の蘊奥を究め兼ねて人格を陶冶し社会に貢献する女性医人を育成する。」と記されている。

建学の精神に基づく医療人育成の場として、1998年（平成10年）度より新たに看護学部が新設された。医療を行うものが学ぶ学府として、現在の東京女子医科大学の使命は、最良の医療を実践する知識・技能を修め高い人格を陶冶した医療人および医学・看護学研究者を育成する教育を行うことである。大学建学の精神に基づき、大学教育では社会に貢献する女性の医療人を育成する。

II. 大学の理念

東京女子医科大学の使命を達成するための教育・研究・診療の基盤となる理念は、「至誠と愛」である。至誠は、「常住不断私が患者に接するときの根本的な心構えを短い二つの文字のなかに言い現したもの（吉岡彌生傳）」という創立者吉岡彌生の座右の銘であり、「きわめて誠実であること」「慈しむ心（愛）」は教育・研究・診療の総ての場において求められる。大学およびそこに学び働くものは本学の理念である「至誠と愛」に従って活動しなくてはならない。

看護学部教育理念

本学部は「女性の社会的地位の向上と経済的自立を目指すと共に、至誠と愛の精神に基づき医療を行う人材を育成する」という創立者吉岡彌生の趣旨を受けつぎ、これを教育の基本理念とする。

本学部における教育は学生が自ら学び成長しようとする向上心を側面から支援することであると考える。それは、学生一人一人の個性を尊重する教師と、自ら学ぼうとする学生との真剣な相互作用の過程において創られるものである。

看護学部教育目的

本学部は、建学の精神に基づき、変動する社会情勢の中で看護の役割を認識し、責任を自主的に果たし得る看護実践者を育成する。すなわち、いかなる状況下においても、医療倫理を遵守し、至誠と愛の精神に基づいて行動できる看護職者としての基礎を確立することを目的とするものである。さらに、本学部の教育は、看護の専門性を追求し、看護学の発展に寄与できるための基礎を養うものである。

看護学部教育目標

看護はあらゆる健康のレベルにある人々を対象とし、それらの人々の健康レベルの向上を目指して援助を行うものであり、この援助活動は、人々の生活を尊重し、人間理解に根ざした関係を基盤として、継続的に行われるものである。看護は人間としてさけられない「生・老・病・死」とかかわりを持ちながら、対象者との密接な人間関係を通して行われていくものである。したがって、看護者には豊かな人間性と科学的思考に支えられた創造的・主体的行動が求められる。

本学部は以下の教育目標を掲げる。

- 1) 豊かな人間性を養い、生活者としての人間を理解する基礎能力を養う。
- 2) 看護実践に必要な科学的思考および看護の基本技術を身につけ、人間関係を基盤として、健康問題を解決する能力を養う。
- 3) 社会情勢の変化に応じて、保健・医療・福祉チームの中で主体的かつ協調的に看護の役割を果たすとともに、現状を変革する基礎能力を養う。
- 4) 研究の基礎能力を養う。
- 5) 専門職者として自己の能力を評価し、自己成長のできる基盤を養う。
- 6) 国際的な視野に立って活動できる基礎能力を養う。

第4学年教育目標

1. 広範な知識を統合し、プロフェッショナルとしての自己の方向性を明らかにする。
2. 4年間の学習を総括し、さらなる発展にそなえる。

看護学部の授業科目および単位数

開講区分	授 業 科 目	単位数		コマ数	配当年次および単位数								卒業に必要な単位数	
		必修	選択		1年次		2年次		3年次		4年次			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
人間の 本質を問う	心 理 学	1		15			1							1
	生物としての人間	2		15	2									2
	栄 養 代 謝 学	2		23		2								2
	人体の構造と機能	4		60	2	2								4
	人 間 発 達 論	1		8	1									1
	人 間 関 係 論	1		15				1						1
	生 体 の 化 学	1		8	1									1
	人 間 援 助 論 I	1		15	1									1
	医療における倫理学	2		15			2							2
	女 性 論		1	8								1		3
	哲 学		1	8	1									
	人 間 援 助 論 II		1	8								1		
	論 理 学		1	8			1							
	計	15	4	206	8	4	4	1	0	0	2	0		18
生活している人間の環境	生 体 防 御 機 構	1		15			1							1
	感 染 看 護	1		8			1							1
	公 衆 衛 生 学	2		15					2					2
	疫 学	1		15									1	1
	医療行政・関係法規	2		30							1	1		2
	社 会 福 祉 学	1		15			1							1
	家 族 関 係 論	1		8					1					1
	文 化 人 類 学		1	8							1			3
	社 会 と 人 間		1	8			1							
	生 活 科 学 論		1	8	1									
	人 間 生 活 と 法		1	15									1	
	人 間 生 活 と 経 済 学		1	8				1						
計	9	6	161	2	0	4	1	3	0	2	3		12	
健康障害と生活の調整	健 康 科 学 論	1		15					1					1
	薬 理 学	2		23			1	1						2
	病態学・概論	2		15		2								2
	病態学・各論Ⅰ（内科系）	4		60			2	2						4
	病態学・各論Ⅱ（外科系）	2		30			1	1						2
	病態学・各論Ⅲ（小児）	1		15				1						1
	病態学・各論Ⅳ（母性）	1		15				1						1
	病態学・各論Ⅴ（老年）	1		8				1						1
	病態学・各論Ⅵ（精神）	1		8				1						1
	人 間 工 学	1		8	1									1
	保 健 医 療 行 動 科 学	1		15									1	1
	リハビリテーション	1		8				1						1
	医 学 特 論		1	8									1	0
計	18	1	228	1	2	4	9	1	0	0	2		18	

開講区分	授 業 科 目	単位数		コマ数	配当年次および単位数								卒業に必要な単位数	
		必修	選択		1年次		2年次		3年次		4年次			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
働きかけの基本 看護活動	健康教育学	1		15						1				1
	看護学・概論	2		15	2									2
	基礎看護学・各論Ⅰ (生活援助論)	2		30	2									2
	基礎看護学・各論Ⅱ (診療に伴う援助論)	2		30		2								2
	基礎看護学・各論Ⅲ (看護過程論)	1		15		1								1
	成人看護学・概論	1		8			1							1
	成人看護学・各論Ⅰ (健康各期の看護)	2		23			2							2
	成人看護学・各論Ⅱ (専門領域の探求)	2		23				2						2
	フィジカルアセスメント	1		15			1							1
	老年看護学・概論	1		15				1						1
	老年看護学・各論	2		23					2					2
	小児看護学・概論	1		8				1						1
	小児看護学・各論	2		30					2					2
	母性看護学・概論	1		8				1						1
	母性看護学・各論	2		30					2					2
	地域看護学・概論	1		8					1					1
	地域看護学・各論	2		23					2					2
	精神看護学・概論	1		8				1						1
	精神看護学・各論	2		23					2					2
	在宅看護論	2		15					2					2
	基礎看護学実習Ⅰ	1		23	1									1
	基礎看護学実習Ⅱ	2		45		2								2
	成人看護学実習Ⅰ	2		45				2						2
	成人看護学実習Ⅱ	4		90						4				4
	老年看護学実習	2		45						2				2
	小児看護学実習	2		45						2				2
	母性看護学実習	2		45						2				2
	地域看護学実習Ⅰ	1		23						1				1
	地域看護学実習Ⅱ	1		23						1				1
	地域看護学実習Ⅲ	2		45							2			2
	精神看護学実習	2		45							2			2
	統合実習	2		45							2			2
コミュニケーションの理論と実際(養選)		1	15								1		0	
計		54	1	899	5	5	4	8	13	13	7	0	54	

開講区分	授 業 科 目	単位数		コマ数	配当年次および単位数								卒業に必要な単位数		
		必修	選択		1年次		2年次		3年次		4年次				
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
人間性を育む	フィットネスの理論と実技	2		30	1	1									2
	英 語 I - 1	2		30	1	1									2
	英 語 I - 2	2		30			1	1							2
	英 語 II	2		30					1	1					2
	英 語 III		2	30							1	1			4
	英 語 IV ☆		2	30			(2)		(2)		2				
	ド イ ツ 語 I	2		30	1	1									
	ド イ ツ 語 II	2		30			1	1							
	フ ラ ン ス 語 I	2		30			1	1							4
	フ ラ ン ス 語 II	2		30					1	1					
	中 国 語	2		30					1	1					
	日 本 語 学	2		23	1	1									
	美 術	2		30	1	1									3
	音 楽	2		30	1	1									
	パフォーマンス芸術論	1		15										1	
国 際 関 係 論	1		8										1		
計	8	22	436	6	6	3	3	3	3	3	3	3	3	15	
各専門領域への発展	保健医療統計学	1		15				1						1	
	情報科学演習Ⅰ	1		15	1									1	
	情報科学演習Ⅱ	1		15				1						1	
	リエゾン精神看護	1		8								1		1	
	研究方法論	1		15					1					1	
	キャリア発達論Ⅰ	1		15	1									1	
	キャリア発達論Ⅱ	1		15			1							1	
	キャリア発達論Ⅲ	1		15					1					1	
	キャリア発達論Ⅳ	1		15							1			1	
	卒業論文	1		15							1			1	
	国際看護 ☆		2	30					(2)		2			0	
	先端医療における看護		1	8								1		0	
計	10	3	181	2	0	1	2	2	0	4	2		10		
合 計	114	37	2111	24	17	20	24	22	16	18	10		127		
				41		44		38		28					

(養選) 印は養護教諭一種免許取得するための選択必要科目。

☆ 印については、海外研修参加年次に履修および単位の認定を行う。

(注) 英語Ⅲと英語Ⅳの重複単位認定はできない。

卒業に要する単位数

開 講 区 分	卒業に要する単位数		
	必修	選択	合計
人間の本質を問う	15	3	18
生活している人間の環境	9	3	12
健康障害と生活の調整	18	0	18
働きかけの基本・看護活動	54	0	54
人間性を育む	8	7	15
各専門領域への発展	10	0	10
計	114	13	127

前学期

4月1日～10月15日まで

後学期

10月16日～翌年3月31日まで

(注) 「人間性を育む」の選択科目は、語学から4単位以上、その他の科目から3単位以上を履修しなければならない。(詳細は学生便覧を参照のこと)

養護教諭一種免許課程に関する科目および単位数

授 業 科 目	単 位 数	コマ数	配当年次および単位数							
			1年次		2年次		3年次		4年次	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
公衆衛生学△	2	15					2			
疫学△	1	15								1
健康科学論△	1	15					1			
学校保健	2	15						2		
学校保健管理論	1	8								1
養護概説	2	15						2		
健康教育学△	1	15						1		
コミュニケーションの理論と実際	1	15								1
栄養代謝学△	2	23		2						
人体の構造と機能△	4	60	2	2						
生体防御機構△	1	15			1					
薬理学△	2	23			1	1				
精神看護学・概論△	1	8				1				
精神看護学・各論△	2	23					2			
基礎看護学・各論Ⅰ(生活援助論)△	2	30	2							
基礎看護学・各論Ⅱ(診療に伴う援助論)△	2	30		2						
基礎看護学・各論Ⅲ(看護過程論)△	1	15		1						
成人看護学・各論Ⅱ(専門領域の探求)△	2	23				2				
成人看護学実習Ⅰ△	2	45				2				
母性看護学・概論△	1	8				1				
母性看護学・各論△	2	30					2			
小児看護学・概論△	1	8				1				
小児看護学・各論△	2	30					2			
小児看護学実習△	2	45						2		
地域看護学・各論△	2	23					2			
教職入門★	2	15				2		(2)		
教育学概論★	2	15			2		(2)			
教育心理学★	2	15				2		(2)		
教育課程論★	2	15				2		(2)		
教育方法論	2	15						2		
生徒指導論	2	15						2		
教育相談	2	15						2		
教職実践演習(養護教諭)	2	15								2
養護実習	5	113								5
日本国憲法★	2	15			2		(2)			
フィットネスの理論と実技△	2	30	1	1						
英語Ⅱ△	2	30					1	1		
情報科学演習Ⅰ△	1	15	1							
情報科学演習Ⅱ△	1	15			1					

★ 印については、2年次に履修しておくことが望ましい。

△ 印については、卒業に必要な必修科目。

東京女子医科大学看護学部

臨地実習における個人情報保護に関する指針

教務委員会

学則ならびに本学部の教育目的に基づき、学生はいかなる状況下においても医療倫理を遵守することが求められる。本学部学生が臨地実習を行う場合には、以下の学則ならびにガイドライン等に基づき、実習で受け持つ患者様等の個人情報を保護するものとする。

(1) 学則 第 11 章 学生に関する規定

(学生に関する規定)

第 36 条 個人情報保護に関する本学のガイドラインに則り、学生生活で得られる個人情報は学習の目的のみに利用し、これを生涯守秘することを義務とする。
なお、指示に応じてその都度所定の誓約書に署名するものとする。

2. 本学則の定めるもののほか、学生に関する規定を別に定める。

(2) 東京女子医科大学における個人情報の保護に関するガイドライン

(3) 東京女子医科大学における情報公開の指針

具体的には、以下の点に留意することとする。

- ①診療録・看護記録等の閲覧は施設内の決められた場所で行うこと。
- ②実習記録には個人が特定できる情報は記載しないこと。
- ③実習記録は厳重に保管し紛失しないこと。
- ④実習終了後は、実習記録を個人の責任のもとに断裁処分すること。

科目別到達目標
講義スケジュール

人間の本質を問う

〔女性論〕（選択科目）

科目責任者 山村 直子

目的

近年、女性の社会進出についていろいろ論議されることが多くなっている。世間で考えられている女性のイメージと実態にズレがあることや、現実の女性の状況を知り、自身の生き方の中に職業をどう位置づけるかの手がかりを見つけてほしい。

到達目標

1. 女性の視点で物事を見直す、という女性学の考え方を知る。
2. ごく個人的な家庭の中のことながらも、大きく法律や慣習に規定されていることを知る。
3. 看護職が女性集中職であることの意味を、女性学の視点で見る。
4. 政治やマス・メディアが自分自身の生活に及ぼしている影響を具体的に知る。
5. 女性の視点で社会を見直すと、今までとちがった物事のとらえ方や行動が見えてくることを自覚できる。

大項目	中項目	小項目
I. 女性学の考え方	1. 女性学の目指すこと	1) 研究方法 2) なすべきこと
	2. 女性学の背景	1) 性差と性差別の考え 2) 変わってきた女性の生活 3) 国連の女性の地位向上運動
II. 家庭における女性の状況	1. 性別役割分業の考え	
	2. 女の子に何を期待するか	
	3. 結婚	1) 夫婦同姓の原則 2) 夫婦関係
	4. 子育て	1) 子ども観 2) 三歳児神話
III. 職場における女性の状況	1. 働く女性の現状	
	2. 女性の労働に対する評価の問題	1) 有償労働と無償労働の分担 2) コンパラブル・ワースの考え方
	3. 女性集中職の問題 —看護職の現状	
IV. 政策・方針決定の場での女性の状況	1. 女性の割合	
	2. 女性議員が増えると何が変わるか	
V. マス・メディアと女性の状況	1. マス・メディアの現状	1) 情報の送り手は誰か
		2) ニュース内容としての女性
		3) テレビCMのかたより
		4) まちがった性情報の氾濫
	2. メディアの中で女性のはたす役割	
3. メディア・リテラシー		

女性論

評価方法：講義へのコメントカードと試験（場合によってはレポート）

教科書

特に指定しない

適宜プリント配布の予定

参考図書

井上輝子 ^他 編	女性のデータブック 第4版	有斐閣	2005
B.エーレンライク ^他	魔女・産婆・看護婦	法政大学出版局	1996
A.H.ジョーンズ	看護婦はどう見られてきたか	時空出版	1997
リンダ・ブルム	フェミニズムと労働の間	御茶の水書房	1996
天野正子	転換期の女性と職業	学文社	1982
柏木恵子	子どもという価値	中央公論新書	2001
勝原裕美子	看護師のキャリア論	ライフサポート社	2007
ダナ・ベス・ワインバーグ	コード・グリーン	日本看護協会出版会	2004
二宮周平	家族と法（岩波新書）	岩波書店	2007
柏木恵子	子どもが育つ条件（岩波新書）	岩波書店	2008

<講義スケジュール>

1	2013.10.1	火	14:35~16:00	山村 直子	女性学の考え方
2	10.1	火	16:10~17:35	山村 直子	家庭における女性の状況
3	10.8	火	14:35~16:00	山村 直子	家庭における女性の状況
4	10.8	火	16:10~17:35	山村 直子	職場における女性の状況
5	10.15	火	14:35~16:00	山村 直子	職場における女性の状況
6	10.15	火	16:10~17:35	山村 直子	政治と女性の状況
7	10.22	火	14:35~16:00	山村 直子	マス・メディアと女性の状況
8	10.22	火	16:10~17:35	山村 直子	試験

〔人間援助論Ⅱ〕（選択科目）

科目責任者 水野修次郎

目的

人間に対する援助の特質を理解し、それに対応できる技術を学ぶ。技術には、理解すること、共感すること、支持すること、エンパワーすることなどについて学ぶ。援助する人の特色、援助される人のニーズ、お互いの関係性、それを満たす方法などを学習する。また、危機の状態、死や喪失、自死の予防などの危機状態について学び、そのような場合の援助行動について学ぶ。

到達目標

1. 人間援助の理論や技術が説明できる。
2. 援助者のニーズが何であるかを説明できる。
3. 援助要請行動を説明できる。
4. 人間援助過程について説明できる。
5. 人間援助の技法について心理学、人間学、看護学の視点から説明できる。
6. 危機の場合の援助について説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 人間援助とは何か	1. 援助の普遍性 2. 援助者と被援助者との関係性 3. 援助者の特性	1) 行動科学的援助とアートとしての援助 2) 援助の意味 1) 自己理解、自己一致、純粋性、共感、ケア 1) 理想的な援助者の特性 2) 援助者の人間性
II. 援助技法	1. 理解のための援助技法 基本的な援助技術 発展的な援助技術	1) 共感すること 2) より深い共感 3) 明確化 4) 支持と援助 5) エンパワーメント
III. 援助要請行動	1. 援助を求める行動 2. ニーズとは	1) 援助を求める行動 2) 援助要請とリスク 1) ニーズのアセスメント 2) リフレクションする力
IV. 援助者の関係性	1. 専門援助職とは	1) 高い機能を保つ 2) 援助という専門性 3) 他者との関係性
V. 危機	1. 危機と援助 2. 擁護と援助	1) 自死の防止 2) 生と死 1) 擁護と援助 2) 喪失と援助

評価方法

試験結果、出席状況、単元毎の章テストによって評価を行う。

教科書

水野修次郎著 『カウンセリング練習帳—人間関係システム視点—』 おうふう 2009

参考図書

トラベルビー, J. 『トラベルビー人間対人間の看護』
(長谷川浩、藤枝知子 訳) 医学書院 1974

ウィーデンバック A 『臨床看護の本質 2版』
(外口玉子、池田明子 訳) 現代社 1984

<講義スケジュール>

1	2013.9.11	水	9:00～10:25	水野修次郎	イントロダクション 援助の普遍性と人間援助
2	9.11	水	10:35～12:00	水野修次郎	援助行動における関係性と援助者の人間性
3	9.13	金	9:00～10:25	水野修次郎	援助過程の理論と技術
4	9.13	金	10:35～12:00	水野修次郎	援助技術（1）共感すること（2）明確化、質問
5	9.18	水	9:00～10:25	水野修次郎	援助技術（3）支援と援助（4）エンパワーメント
6	9.18	水	10:35～12:00	水野修次郎	援助者の関係性
7	10.22	火	9:00～10:25	水野修次郎	援助専門職とは
8	10.29	火	10:35～12:00	水野修次郎	援助と擁護（自死、生と死、喪失）

生活している人間の環境

〔疫 学〕

科目責任者 山口 直人
 科目担当者 山口 直人、岡本 高宏、清水 悟、
 佐藤 康仁、清原 康介、蔣池 勇太、
 福島 教照、古島 大資

目的

疫学概念と方法を理解し、これを集団に応用して、地域保健、地域看護に役立つ基礎的な能力を身につける。

到達目標

1. 疫学の歴史、目的と意義について説明することができる。
2. 有病率と罹患率の違いについて説明することができる。
3. 相対危険度と寄与危険度の違いについて説明することができる。
4. コホート研究と症例対照研究の利点と限界点について説明することができる。
5. 疫学研究に伴う誤差について説明することができる。
6. 因果関係を評価する際の基準について説明することができる。
7. スクリーニング検査の原理、敏感度と特異度について説明することができる。

大項目	中項目	小項目
疫学	1. 概念と方法	1) 歴史 2) 目的と意義 3) 疾病の自然史
	2. 疫学指標	1) 分母と分子 2) 率と比 3) 罹患率と有病率 4) 相対危険度、寄与危険度、オッズ比 5) 致命率、生存率
	3. スクリーニング	1) 原理 2) 敏感度と特異度 3) 偽陽性率と偽陰性率
	4. 記述疫学	1) 仮説の設定 2) 標準化死亡比 3) 年齢調整死亡率
	5. 分析疫学	1) コホート研究 2) 症例対照研究 3) 横断研究 4) 実験(介入)研究
	6. 疾病のリスクと要因	1) 危険度とその評価 2) 疫学で考慮すべき要因
	7. 疫学による意思決定	1) 根拠に基づいた医療
	8. 分子疫学	1) 最近の知見
	9. 疫学研究の誤差	1) 誤差と偏り(bias) 2) 無作為化 3) マッチング 4) 標準化

疫学

大項目	中項目	小項目
	10. 因果関係の評価 11. 疾病登録とサーベイランス 12. 人口統計・保健統計調査	1) 因果関係論 1) 現状 1) 人口統計の基礎 2) 動態統計と静態統計 3) 指定統計 4) その他の統計

評価方法：講義への出席、試験

教科書

なし

参考図書

日本疫学会監修	はじめて学ぶやさしい疫学－疫学への招待－2版	南江堂	2010
日本疫学会編	疫学－基礎から学ぶために－	南江堂	1996
日本疫学会編	疫学ハンドブック－重要疾患の疫学と予防－	南江堂	1998

<講義スケジュール>

1	2013.9.20	金	9:00~10:25	山口 直人	疫学の概念
2	9.20	金	10:35~12:00	清水 悟	疫学指標1.
3	9.27	金	9:00~10:25	清水 悟	疫学指標2.
4	9.27	金	10:35~12:00	清水 悟	疫学調査法1. 記述疫学
5	10.4	金	9:00~10:25	清水 悟	疫学調査法2. コホート研究
6	10.4	金	10:35~12:00	佐藤 康仁	疫学調査法3. 症例対照研究
7	10.11	金	9:00~10:25	古島 大資	介入研究
8	10.11	金	10:35~12:00	古島 大資	疾病のリスクと要因
9	10.18	金	9:00~10:25	清原 康介	因果関係の評価
10	10.18	金	10:35~12:00	福島 教照	集団検診の原理と方法(スクリーニング)
11	11.1	金	9:00~10:25	蔣池 勇太	分子疫学
12	11.1	金	10:35~12:00	清原 康介	疫学研究の誤差
13	11.8	金	9:00~10:25	佐藤 康仁	疾病登録とサーベイランス
14	11.8	金	10:35~12:00	岡本 高宏	臨床疫学・疫学による意思決定
15	11.15	金	10:35~12:00	山口 直人	試験

〔医療行政・関係法規〕

科目責任者 西田 幸典
 科目担当者 西田 幸典、木原 章子

目的

看護者としての職責を正しく遂行するために心得ておかなければならない法の枠組み、および医療における行政の責務を理解することを目的とする。

到達目標

1. 法の構造・考え方を理解することができる。
2. 医療における行政の責務を、各種法令の規定から理解することができる。
3. 看護職の身分法（資格法）である保健師助産師看護師法の規定を理解することができる。
4. 医療従事者の業務などの法的枠組みを理解することができる。
5. 医療保険・介護保険制度の概要を理解することができる。
6. 公衆衛生の向上・維持を目的とする各種法規の概要を理解することができる。
7. 医療事故における法的責任を理解することができる。

大項目	中項目	小項目
I. 法というものの考え方	1. 法の構造 2. 法というものの考え方	1) 法の体系 1) 法解釈学 2) 法的責任の種類
II. 行政の仕組み	1. 三権分立	1) 厚生行政の仕組み
III. 医療スタッフの業務分担	1. 医療スタッフの業務分担に関する現行法の構造 2. 法令が定める業務 3. 業務独占 4. 名称独占 5. その他の規定	1) 医療スタッフとは 2) 医師を頂点とするタテ型の分担協力関係 1) 医療スタッフの業務の中身と医師の指示 2) 固有の業務と「診療の補助」としての業務 1) 独占している業務とは？ 2) 業務を独占する効果は？ 1) 名称を独占する効果は？ 1) 応招義務 2) 守秘義務 3) 記録と保存など
IV. 保健師助産師看護師法	1. 保健師助産師看護師法の構造と付随法令 2. 業務（III. 2. に含める） 3. 試験 4. 免許 5. その他	1) 診療の補助 2) 療養上の世話 3) 保健師助産師看護師法 37 条 1) 受験資格 1) 免許の要件 2) 籍 3) 免許の取消し及び業務の停止など 1) 業務従事者届 2) 受胎調節の実地指導 3) 証明文書 4) 異常死産児の届出

大項目	中項目	小項目
V. 医療法	1. 目的 2. 理念 3. 定義 4. 医療施設の開設等 5. 医療施設の管理等 6. 医療施設の監督 7. 医療計画 8. 医療法人	1) 理念と責務 1) 病院・診療所・地域医療支援病院・特定機能病院 1) 許可と届出 2) 非営利性 3) 病床数・病床種別の変更等 1) 収容時間と収容人員 2) 掲示 3) 業務委託 4) 宿直 5) 各種の報告と管理者の義務 6) 人員配置基準 7) 医療施設の構造設備 8) 診療に関する諸記録等 9) 広告規制 1) 報告命令・立入調査など 1) 区域の設定、医療供給体制の確保 2) 医療計画の策定
VI. 薬事法規	1. 薬事法 2. その他の薬事法規	1) 薬事法が規定することとは 1) 毒物及び劇物取締法 2) 麻薬及び向精神薬取締法
VII. 労働法規	1. 労働基準法 2. その他の労働法規	1) 労働基準法が規定することとは 1) 労働安全衛生法、労働者災害補償保険法 2) 育児休業・介護休業 3) その他
VIII. 医療保険制度	1. 医療保険の分類 2. 保険者と被保険者 3. 保険給付と一部負担金 4. 保険料その他 5. 国民医療費の動向	1) 被用者保険と地域保険 2) 高齢者医療制度
IX. 介護保険制度	1. 保険者と被保険者 2. 保険給付 3. 介護保険給付の認定 4. 介護支援専門員	1) 要支援認定・要介護認定
X. 医療事故における法的責任	1. 法的責任の種類	1) 民事責任 不法行為・債務不履行、金銭賠償の原則、使用者責任、看護職賠償責任保険

大項目	中項目	小項目
X I. 感染症に関する法規	2. 労働者としての制裁	2) 刑事責任 刑の種類、罪の種類（医事法規違反、刑法違反、国家・地方公務員法違反）
		3) 行政責任 業務の停止・免許の取消し・戒告及びその手続き、再教育研修
		1) 懲戒処分（解雇など）
		1) 法律制定までの経緯 2) 感染症に関する情報の収集と公表 3) 患者に対する措置 4) 物件に対する措置 5) 特定の感染症対策(結核、新型インフルエンザ)
		1) 定期・臨時の予防接種 2) 健康被害救済制度
X II. 看護過誤判例	1. 数件の判例の紹介	1) 判例が意味するところ
X III. 医療情報の保護	1. 医療における個人情報とは 2. 個人情報保護法 3. 個人情報の利用 4. 診療情報管理士	1) カルテ情報、遺伝子情報など
		1) プライバシーと自己決定 2) 個人情報取扱事業者
		1) 手続き、包括的同意・個別同意
		1) 法的根拠など（医療保険法、病院機能評価） 2) 業務
X IV. 診療記録	1. 診療記録の法的根拠 2. 閲覧謄写請求権 3. 証拠保全 4. 保存期間 5. 医療裁判における診療記録の重要性	1) 診療録と看護記録

評価方法

定期試験、出席状況により評価する

教科書

森山幹夫 著 系統看護学講座 専門基礎分野 医学書院 2013
看護関係法令 第45版

参考図書

宇都木伸、平林勝政 編著 フォーラム医事法学 [追補版] 尚学社 1997
岩崎 榮 監修 実践の場で生かす看護関係法規 医学書院 1997
医療法制度研究会 監修 医療六法 平成25年版 中央法規 2013

＜講義スケジュール＞

1	2013.9.10	火	9:00～10:25	西田 幸典	法規の概念①
2	9.10	火	10:35～12:00	西田 幸典	法規の概念②、厚生行政の仕組み
3	9.17	火	9:00～10:25	西田 幸典	医師法・歯科医師法①
4	9.17	火	10:35～12:00	西田 幸典	医師法・歯科医師法②、薬剤師法
5	9.19	木	9:00～10:25	木原 章子	医療保険制度①
6	9.19	木	10:35～12:00	木原 章子	医療保険制度②
7	9.24	火	9:00～10:25	西田 幸典	保健師助産師看護師法①
8	9.24	火	10:35～12:00	西田 幸典	保健師助産師看護師法②
9	9.26	木	9:00～10:25	木原 章子	医療保険制度③
10	9.26	木	10:35～12:00	木原 章子	薬事法規①
11	10.8	火	9:00～10:25	西田 幸典	保健師助産師看護師法③
12	10.8	火	10:35～12:00	西田 幸典	保健師助産師看護師法④
13	10.10	木	9:00～10:25	木原 章子	介護保険制度①
14	10.10	木	10:35～12:00	木原 章子	介護保険制度②
15	10.17	木	9:00～10:25	木原 章子	労働法規①
16	10.17	木	10:35～12:00	木原 章子	労働法規②、薬事法規②
17	10.29	火	9:00～10:25	西田 幸典	その他の医療従事者①
18	11.7	木	9:00～10:25	木原 章子	感染症に関する法規①
19	11.11	月	9:00～10:25	西田 幸典	その他の医療従事者②
20	11.11	月	10:35～12:00	西田 幸典	その他の医療従事者③
21	11.12	火	9:00～10:25	西田 幸典	その他の医療従事者④
22	11.12	火	10:35～12:00	西田 幸典	医療法①
23	11.13	水	9:00～10:25	木原 章子	感染症に関する法規②
24	11.13	水	10:35～12:00	木原 章子	感染症に関する法規③
25	11.14	木	9:00～10:25	木原 章子	医療事故における法的責任①
26	11.28	木	9:00～10:25	木原 章子	医療事故における法的責任②
27	11.28	木	10:35～12:00	木原 章子	医療事故における法的責任③
28	12.3	火	9:00～10:25	西田 幸典	医療法②、診療記録
29	12.3	火	10:35～12:00	西田 幸典	医療情報の保護
30	12.10	火	10:35～12:00	西田 幸典	試験

〔文化人類学〕（選択科目）

科目責任者 穴戸 佳織

目的

文化人類学を学ぶ目的は、異文化を理解することによって自己の文化を相対化する視点を獲得することである。

世界的に人的・物的交流がますます盛んになっている現在、我々は生活の中のさまざまな場面で「異文化への遭遇」を余儀なくされている。看護の現場でも、文化的背景が異なる人々を避けて通ることはできない。

この講義では、第一に文化人類学の考え方を紹介し、次に異文化理解の具体的な方法であるフィールドワークの手法について触れる。文化理解の試みとして、様々な民族社会の親族構造と家族、遊びや儀礼、食文化や食生活など現実的な素材をとりあげて、人間の行動様式や心理様式を考察していきたい。

到達目標

1. 文化人類学を学ぶ意義について、説明できる。
2. 文化とはなにか、という問いについて説明できる。
3. 文化人類学史上の様々な視点について、それぞれ説明できる。
4. フィールドワークの持つ意味について説明でき、これを生活の中で応用することができる。
5. 人間がなぜ遊ぶのかを理解できる。
6. 親族と家族のさまざまなあり方を知り、親族や家族が我々の生活の中で持つ意味を理解できる。
7. 食文化と食生活の定義について、説明できる。
8. 食文化の文化的背景（例、宗教による戒律）などを理解し、生活の中で応用することができる。
9. 食習慣の定着化と食物の利用について、説明することができる。
10. 世界の中で、同じ飲料（例、茶）の様々な飲用法を知り、生活の中で応用することができる。

大項目	中項目	小項目
I. 文化人類学とは何か	1. 文化人類学の発展 2. 異文化理解 3. 文化人類学の視点	1) カルチャーショック 2) 文化の定義 3) 文化の比較 4) 自民族中心主義 5) 文化相対主義
II. 文化理解の方法	1. フィールドワーク	1) 文献調査 2) アンケート調査 3) ヒアリング調査 4) 参与観察法
III. 文化理解の実践	1. 遊び、芸術、神話、儀礼 2. 親族と家族のあり方 3. 食文化	1) 遊びの意義：事例、スポーツ 2) 芸術、神話、儀礼の意義：事例、演劇 1) 親族の定義 2) 世界の親族構造 3) 結婚の定義 4) 家族のあり方：事例、日本 1) 食文化と食生活の定義 2) 食物分類と選択 3) 食習慣の定着化 4) 食物の利用 5) 食の国際化の事例：事例、茶のグローバル化

評価方法

レポートと出席状況により評価を行う。

教科書

毎回、プリント等を配布する。

参考図書

E.A シュルツ・R.H ラヴェンダ	文化人類学 I、II	古今書院	1993/1995
秋野 晃司 ^他 訳			
秋野 晃司編著	アジアの食文化	建帛社	2000

<講義スケジュール>

1	2013.9.12	木	13:00~14:25	宍戸 佳織	現代に生きる私達が人間の文化を研究する文化人類学を学ぶ意義について考える。
2	9.12	木	14:35~16:00	宍戸 佳織	文化理解の方法について概説を行う。特にフィールドワークについて、異文化調査を事例にして説明をする。
3	9.19	木	13:00~14:25	宍戸 佳織	遊び、芸術、神話、儀礼は人間が生きていくのにどうして必要であるかを、スポーツや演劇などを例にひいて検討する。
4	9.19	木	14:35~16:00	宍戸 佳織	親族、結婚、家族のあり方は文化によって異なる。それらを贈与と交換理論から考える。
5	9.26	木	13:00~14:25	宍戸 佳織	私たちの生活様式を理解するために、異文化社会を事例にしながら生産活動の生業について概説を行う。
6	9.26	木	14:35~16:00	宍戸 佳織	飲料がグローバル化していく過程について、日本、アジア各地およびヨーロッパにおける茶の飲用法の変遷を事例に考察する。
7	10.3	木	9:00~10:25	宍戸 佳織	比較文化論的視点から食文化について概説を行う。まず、食文化、食生活の定義を行い、次に食文化における宗教的なタブーについての理論をとりあげる。
8	10.3	木	10:35~12:00	宍戸 佳織	まとめ

〔人間生活と法〕（選択科目）

科目責任者 東 裕

現代社会で生活する中で、好むと好まざるとに関わらず法との関わりを避けて通ることは出来ない。とくに医療関係者においては医療過誤による訴訟に巻き込まれるといった深刻な事態に至ることすらある。そこで、本講義では、我々の日常生活と関わりの深い法の基本的な仕組みと考え方を理解することを目的として、法学を学ぶ上で重要な基本概念の説明から始め、憲法、民法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法、および労働法のしくみと基本概念について理解できるように解説する。その結果、法学の基本概念（法源・成文法・不文法・実定法・自然法など）並びに憲法、民法、刑法、民事訴訟法、および刑事訴訟法の構造（基本原理・主要規定・適用領域など）等を説明できることを到達目標とする。講義にあたっては、具体例を交えながら出来るだけわかりやすく説明し、受講者の理解度を確認しながら授業を進めたい。

目的

とくに日常生活と関わりの深い法の分野を取り上げ、法の世界の基本的なしくみと考え方を理解することを目的とする。

到達目標

1. 法と道徳の違いを明確に説明できる。
2. 国の法体系について簡潔に説明できる。
3. 日本国憲法の基本原理について簡潔に説明できる。
4. 権力分立について日本国憲法を例に説明できる。
5. 平等とは何かについて簡潔に説明できる。
6. 自由権について簡潔に説明できる。
7. 参政権と請求権について簡潔に説明できる。
8. 社会権とは何かについて簡潔に説明できる。
9. 刑事裁判と民事裁判の違いについて簡潔に説明できる。
10. 財産法の基本原理について簡潔に説明できる。
11. 罪刑法定主義について簡潔に説明できる。
12. 労働基本権について簡潔に説明できる。
13. 事故の加害者の責任について簡潔に説明できる。
14. 医療分野でどのような法的問題があるか例を挙げて説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 法とは何か	1. 法の意義 2. 法の基礎 3. 法学とは	1) 社会生活と法 2) 法と道徳（強制力の違い） 3) 法学の分野と法解釈学
II. 法のしくみ	1. 法源 2. 成文法と不文法 3. 成文法の分類	1) 法源とは何か 2) 成文法・不文法とは何か 3) 国法秩序の体系
III. 憲法の基本原理	1. 国民主権 2. 平和主義 3. 基本的人権尊重主義	1) 国民主権の意味 2) 日本国憲法の平和主義の特徴 3) 基本的人権とは何か
IV. 国の統治機構	1. 権力分立 2. 議院内閣制 3. 司法権の独立	1) 権力分立の意義と目的 2) 国会と内閣の関係はどうなっているか 3) 司法権の独立とは何か

大項目	中項目	小項目
V. 平等権	1. 法の下での平等 2. 平等の意義 3. 平等権の内容	1) 自由と平等 2) 平等と不平等 3) 平等権の一般原則（憲法 14 条 1 項）
VI. 自由権	1. 精神的自由権 2. 経済的自由権 3. 人身の自由	1) 内面的自由権・外面的自由権 2) 経済的自由権と公共の福祉 3) 適正手続の保障
VII. 参政権と請求権	1. 参政権 2. 国家賠償請求権 3. 裁判を受ける権利	1) 選挙権・被選挙権 2) 国家賠償請求権（憲法 17 条）の意味 3) 裁判を受ける権利（憲法 32 条）の意味
VIII. 社会権	1. 生存権 2. 教育権 3. 勤労権と労働基本権	1) 憲法 25 条の法的性格 2) 教育権（憲法 26 条）とは 3) 労働三権とは何か
IX. 裁判のしくみ	1. 裁判所の組織 2. 裁判手続 3. 国民と司法	1) 裁判所の種類と三審制 2) 刑事裁判・民事裁判・行政裁判 3) 裁判員制度
X. 財産と法	1. 財産法の基本原理 2. 契約 3. 所有権	1) 所有権絶対の原則 2) 契約自由の原則 3) 過失責任の原則
XI. 犯罪と法	1. 罪刑法定主義 2. 犯罪の成立要件 3. 違法性と責任	1) 罪刑法定主義の意義と機能 2) 犯罪とは何か 3) 違法性・責任とは何か
XII. 労働と法	1. 労働法 2. 労働者保護法	1) 労働法とは何か 2) 労働基準法と労働契約法 3) 労働組合法と不当労働行為
XIII. 事故と法	1. 加害者の責任 2. 民事責任 3. 刑事責任	1) 刑事責任と民事責任 2) 債務不履行責任と不法行為責任 3) 不法行為責任の限界
XIV. 医療と法	1. 医療と法の関係 2. 医療訴訟 3. 生命をめぐる法律問題	1) 医事法の確立・自己決定権 2) 医療過誤（民事責任・刑事責任） 3) 人工生殖・安楽死・脳死
*まとめ	1. さらに法学を学ぶには 2. 試験	1) 参考文献・学習方法について 2) 到達目標の達成度をはかるための試験

評価方法：学科試験の成績で評価する。

教科書

使用しない。

参考図書

必要に応じて講義の中で紹介する。

<講義スケジュール>

1	2013.9.9	月	10:35～12:00	東 裕	法とは何か
2	9.9	月	13:00～14:25	東 裕	法のしくみ
3	9.9	月	14:35～16:00	東 裕	憲法の基本原理
4	9.11	水	13:00～14:25	東 裕	国の統治機構
5	9.12	木	9:00～10:25	東 裕	平等権
6	9.12	木	10:35～12:00	東 裕	自由権
7	9.18	水	13:00～14:25	東 裕	参政権と請求権
8	9.25	水	13:00～14:25	東 裕	社会権
9	9.25	水	14:35～16:00	東 裕	裁判のしくみ
10	10.1	火	9:00～10:25	東 裕	財産と法
11	10.1	火	10:35～12:00	東 裕	犯罪と法
12	10.15	火	9:00～10:25	東 裕	労働と法
13	10.15	火	10:35～12:00	東 裕	事故と法
14	10.22	火	10:35～12:00	東 裕	医療と法
15	10.22	火	13:00～14:25	東 裕	試験

健康障害と生活の調整

〔保健医療行動科学〕

科目責任者 諏訪 茂樹

目的

行動科学とは、人の行動を総合的に解明し、予測・統御しようとする実証的な経験科学である。行動科学の歴史や方法について理解したうえで、健康と病気にまつわる行動科学研究の様々な成果を、時代及び社会のニーズや学習者の関心に即しつつ学ぶ。

到達目標

1. 人間の行動を学際的・総合的な視点で説明できる。
2. 保健・受療行動モデルに基づき、動機づけを強化する方法が説明できる。
3. 利用者－医療者関係について説明できる。
4. 看護師－医師関係や看護師関係について、説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 行動科学	1. 行動科学とは 2. 全人的アプローチ	1) 歴史 2) 対象 3) 方法 1) 身体的存在 2) 心理的存在 3) 社会的存在 4) 実存的存在
II. 保健医療行動科学	1. 受療行動 2. 利用者 - 医療者関係 3. 医療者関係	1) 動機 2) 負担 3) 知覚 4) 目標 5) 信念 6) 規範 1) 病者役割 2) お任せとティーチング（指示と助言） 3) 自己決定とコーチング（支持） 4) 言葉づかいにみる利用者－医療者関係 5) ナラティブとエビデンス 6) 利用者の権利と医療者の義務 1) パラメディカル、コメディカル、 インター・プロフェッショナル・ワーク 2) 専門化と自立化 3) ピラミッド組織 4) 逆さまのピラミッド 5) ネットワーク

保健医療行動科学

評価方法

授業の出席率と試験の結果で評価する。

教科書

特に指定しない

参考図書

山田一朗	系統看護学講座 基礎分野 行動科学	医学書院	1994
宗像恒次	最新 行動科学から見た健康と病気	メヂカルフレンド社	1996
S. ロルニック 他	健康のための行動変容—保健医療従事者のためのガイド	法研	2001
山田富美雄 監修	シリーズ 医療の行動科学Ⅱ	北大路書房	2002
津田 彰 編集	医療行動科学のためのカレント・トピックス		
高江洲義矩	保健医療におけるコミュニケーション・行動科学	医歯薬出版	2002
野口裕二	物語としてのケア —ナラティブ・アプローチの世界へ	医学書院	2002
J.O.プロチャスカ他	チェンジング・フォー・グッド—ステージ変容理論で上手に行動を変える	法研	2005
諏訪茂樹	対人援助のためのコーチング —利用者の自己決定とやる気をサポート	中央法規出版	2007
埼玉県立大学	IPW を学ぶ —利用者中心の保健医療福祉連携	中央法規出版	2009
諏訪茂樹	看護にいかすリーダーシップ 第2版 —ティーチングとコーチング、場面对応の体験学習	医学書院	2011

＜講義スケジュール＞

1	2013.10.16	水	10:35～12:00	諏訪 茂樹	行動科学とは（歴史、対象、方法）
2	10.16	水	13:00～14:25	諏訪 茂樹	全人的アプローチ（その1）
3	10.23	水	9:00～10:25	諏訪 茂樹	全人的アプローチ（その2）
4	10.23	水	10:35～12:00	諏訪 茂樹	受療行動（動機、負担）
5	10.30	水	10:35～12:00	諏訪 茂樹	受療行動（知覚、目標）
6	10.30	水	13:00～14:25	諏訪 茂樹	受療行動（信念、規範）
7	11.6	水	13:00～14:25	諏訪 茂樹	利用者－医療者関係 （病者役割、お任せとティーチング）
8	11.6	水	14:35～16:00	諏訪 茂樹	利用者－医療者関係（自己決定とコーチング）
9	11.13	水	13:00～14:25	諏訪 茂樹	利用者－医療者関係 （言葉づかいにみる利用者－医療者関係）
10	11.13	水	14:35～16:00	諏訪 茂樹	利用者－医療者関係（ナラティブとエビデンス）
11	11.27	水	9:00～10:25	諏訪 茂樹	利用者－医療者関係（利用者の権利と医療者の義務）
12	11.27	水	10:35～12:00	諏訪 茂樹	医療者関係（パラメディカル、コメディカル、I P W、 専門化と自立化）
13	12.4	水	13:00～14:25	諏訪 茂樹	医療者関係 （ピラミッド組織、逆さまのピラミッド、ネットワーク）
14	12.4	水	14:35～16:00	諏訪 茂樹	まとめ
15	12.11	水	13:00～14:25	諏訪 茂樹	試験

〔医学特論〕（選択科目）

科目責任者 齋藤加代子

科目担当者 齋藤加代子、上塚 芳郎、木林 和彦、
菅野 仁

目的

患者を受動的な治療対象者としてではなく、自己決定権を有する主体的な存在として把握した上で、全人的医療を目指すという視点に立って、先鋭化しつつある医療の諸問題について生命倫理（Bioethics）、医事法学など社会的視点も含めて包括的に学ぶ。

到達目標

1. 生活習慣と病気について、疾病の予防も含み説明できる。
2. 医療の社会的ニーズ、医療費はどのように支払われているのかについて説明できる。
3. チーム医療について説明できる。
4. EBMとは何か説明できる。
5. 生命倫理学について説明できる。
6. ヘルシンキ宣言、倫理委員会の役割、インフォームドコンセントについて説明できる。
7. 移植医療、再生医療、ターミナルケアについて説明できる。
8. ゲノム、遺伝子、染色体について説明できる。
9. 遺伝子と遺伝の法則について説明できる。
10. 家系図を描くことができる。
11. 疾患と遺伝子変異について説明できる。
12. 遺伝子診断について説明できる。
13. オーダーメイド医療、薬理遺伝学について説明できる。
14. 遺伝子と生命倫理、遺伝カウンセリングについて説明できる。
15. 遺伝子治療について説明できる。
16. 法医学の位置づけ、定義、内容について説明できる。
17. 医療事故について説明できる。
18. 法医看護について説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 医学概論	1. 健康と病気	1) 疾病と予防
	2. 医療の社会的ニーズ	1) 社会の医療に対する期待
	3. 医療と経済	1) 医療費の財源
	4. チーム医療の大切さ	1) 医療職の責任
	5. EBMとは何か	1) EBMに求められるもの
II. 生命倫理学	1. 生命倫理学とは何か	1) 生命倫理学の成立 2) 生命倫理学の位置づけ
	2. 科学的医学	1) ヘルシンキ宣言 2) 倫理委員会の役割
	3. インフォームド・コンセント(IC)	1) ICの理念 2) 臨床試験はどうあるべきか
	4. 移植医療と再生医療	1) 脳死～移植医療の問題点 2) 再生医療の最前線
	5. ターミナルケア	1) がんと人間との闘い 2) 在宅医療と緩和医療
	6. 今後の医療と生命倫理学	1) 現代医療に対する批判 2) 環境問題と生命倫理学
III. 先進医学へ期待と課題（遺伝子診療）	1. 遺伝子	1) 常染色体と性染色体 2) ゲノム 3) 核の遺伝子とミトコンドリア遺伝子 4) 遺伝子の構造、遺伝情報の発現
	2. 遺伝、遺伝の法則	1) 家族歴と家系図 2) ヒトのメンデル遺伝： 常染色体優性遺伝、常染色体劣性遺伝 X連鎖優性遺伝、X連鎖劣性遺伝
	3. 遺伝子と疾患	3) 非メンデル遺伝：ミトコンドリア遺伝 1) 遺伝子変異 2) 遺伝子診断 3) 遺伝子診断が可能な疾患 4) 発症前診断、保因者診断、出生前診断
	4. 薬理遺伝学	1) オーダーメイド医療 2) 一塩基多型(SNPs)
	5. 遺伝子と生命倫理	1) 生命倫理 2) 遺伝差別とプライバシーの保護 3) 遺伝カウンセリング 4) 遺伝カウンセラー、遺伝看護師
	6. 遺伝子治療	1) 体細胞遺伝子治療 2) 生殖細胞遺伝子治療
IV. 法医学概論	1. 法医学の位置づけ	1) 基礎医学 2) 臨床医学 3) 社会医学
	2. 法医学の定義	1) 法医学の役割
	3. 法医学の内容	1) 法医解剖（司法解剖・行政解剖） 2) 監察医制度 3) 異状死 4) 死亡診断書・死体検案書

医学特論

大項目	中項目	小項目
V. 法医学と看護	1. 医事法	5) 鑑定 6) 損傷 7) 窒息 8) 内因性急死 9) 交通外傷 10) 労災事故 11) 親子鑑定
	2. 法医看護	1) 医療事故の民事責任、刑事責任、行政責任 2) チーム医療と医療事故 3) 投薬と医療事故 4) 患者管理と医療事故 5) 看護事故 1) 法医病理学と臨床法医学 2) 法医看護の対象と内容 3) 法医看護のこれから

評価方法：講義への出席、レポート

教科書

新川詔夫 著 遺伝医学への招待 改訂第4版 南江堂 2008

参考図書

菅野純夫 著 わかる実験医学シリーズ 羊土社 2001

ゲノム医科学がわかる

柳澤桂子 著 ヒトゲノムとあなた 遺伝子を読み解く 集英社文庫 2004

福嶋 義光 監訳 トンプソン&トンプソン遺伝医学 *メテイカルサイエンスインターナショナル* 2009

田中宣幸^他 著 学生のための法医学 6版 南山堂 2006

今井道夫 著 生命倫理学入門 3版 産業図書 2011

<講義スケジュール>

1	2013.9.30	月	13:00~14:25	上塚 芳郎	医学概論
2	9.30	月	14:35~16:00	上塚 芳郎	医学概論
3	10.28	月	13:00~14:25	菅野 仁	生命倫理学
4	10.28	月	14:35~16:00	菅野 仁	生命倫理学
5	11.15	金	13:00~14:25	齋藤加代子	先進医学への期待と課題（遺伝子診療）
6	11.25	月	14:35~16:00	齋藤加代子	先進医学への期待と課題（遺伝子診療）
7	11.29	金	9:00~10:25	木林 和彦	法医学概論
8	11.29	金	10:35~12:00	木林 和彦	法医学と看護

働きかけの基本 看護活動

〔地域看護学実習Ⅲ〕

科目責任者 中田 晴美
 科目担当者 伊藤 景一、柳 修平、中田 晴美、
 服部真理子、犬飼かおり、遠藤 直子、
 清水 信輔

目的

地域で生活を共にする人々の健康特性を明らかにした上で、地域における看護職の活動の実際を体験することを通し、地域保健における看護活動の基本を学ぶ。

到達目標

1. 地域保健看護活動に関連する法規とその活用を理解し、地域の保健・医療・福祉に関わる社会資源、組織、機能について説明することができる。
2. 対象となる地域の特性および地域環境を説明することができる。
3. 地域で生活する住民の健康状況および地域（個人・家族・集団）の健康上のニーズを説明することができる。
4. 実際に行われている地域保健看護活動の企画、実施、評価の過程を通し、地域で生活する住民（個人・家族・集団等）の健康に対する働きかけの方法を説明することができる。
5. 地域ケアシステムを構成する各社会資源（人・組織・もの・制度など）の機能と役割を説明することができる。
6. チームメンバーとして看護の独自性を発揮しながら関連職種と協働することの重要性および地域ケアシステムにおけるチームワークの意義について説明することができる。
7. 関連職種と協働する中での、ケア・コーディネーションの意義と実際を説明することができる。
8. 地域のケアの調整を図りケアを実施するケアマネジメントや、新しいケアを創造し既存のものとネットワーク化するというケア・コーディネーションの側面について説明することができる。
9. 実際の地域保健看護活動について、科学的・創造的な視点を持って評価することができる。
10. 地域保健看護活動の今後の課題と方策について提案することができる。

大項目	中項目	小項目
I. 地域における行政施策および社会資源	1. 地域看護活動に関連する法律や枠組み、社会資源の理解	1) 地域看護活動に関連する法規の理解とその活用 2) 地域の保健・医療・福祉に関わる社会資源、組織と機能
II. 地域で生活を共にする住民の健康特性	1. 地域特性や地域環境を踏まえた地域の健康上のニーズの把握	1) 対象となる地域の特性および地域環境 2) 地域で生活する住民の健康状況 3) 地域（個人・家族・集団）の健康上のニーズ
III. 地域の保健福祉行政における保健師活動	1. 把握したニーズに基づく働きかけの方法 2. 地域ケアシステムにおける各社会資源との連携・協働および看護の機能と役割	1) 地域看護活動の企画、実施、評価の過程 2) 地域で生活する住民（個人・家族・集団）の健康に対する働きかけの方法 1) 地域内の各社会資源（人・組織・もの・制度等）や保健医療福祉関連職種の機能と役割 2) チームメンバーとしての看護の独自性と関連職種との協働およびチームワークの意義

大項目	中項目	小項目
IV. 地域(在宅)ケアシステムを構築する地域で働く看護職の役割・機能	3. 地域におけるケア・コーディネーションの意義	1) 関連職種と協働する中での、ケア・コーディネーションの意義と実際 2) 新しいケアを創造し、既存のものとネットワーク化するというケア・コーディネーションの側面
	1. 地域で療養生活を送る住民を支えるために看護職が行うケアマネジメントの役割・機能の理解	1) 地域で療養生活を送る個人とその家族の健康(身体的・精神的・社会的)問題とニーズの把握 2) 療養生活を支えるためのケアマネジメントの役割・機能
	2. 地域ケアシステムが機能を発揮するために必要な社会資源の連携・協働のあり方	1) 地域ケアシステムを構成する社会資源(人・もの・制度等)の役割 2) 各関係機関や関係職種が連携・協働するための方法および連携・協働する上で必要な配慮点 3) 関係職種との協働における看護職の役割
V. 地域保健における看護活動の基本	3. 地域(在宅)ケアシステムを構築する地域の看護職の役割・機能	1) コミュニティヘルスアセスメントにより把握した地域特性や地域のニーズ 2) 地域住民・専門職等と構築する地域ケアシステム 3) 地域を基盤にしたケアシステムを構築する地域看護活動に対する科学的・創造的評価
	1. 地域保健看護活動の意義と役割の再考	1) 地域保健看護活動に対する科学的・創造的評価 2) 地域保健看護活動の今後の課題

実習方法：グループに分かれ、各実習施設(保健所・保健センター等、訪問看護ステーション)で実習を行う(地域看護学実習Ⅲ実習要項を参照のこと)。

評価方法：事前学習、実習目標の達成度(記録提出、内容を含む)、出席状況(オリエンテーションも含む)、実習態度等により総合的に評価を行う。

教科書

国民衛生の動向 2012/2013	厚生統計協会	2012
第3版保健師業務要覧	日本看護協会出版会	2013

参考図書

国民の福祉の動向 2012/2013	厚生統計協会	2012
保険と年金の動向 2012/2013	厚生統計協会	2012
エリザベス T. アンダーソン, ジュディス・マクファーレイン (金川克子・早川和生監訳)	コミュニティアズパートナー 地域看護学の理論と実際 第2版	医学書院 2007
朝日新聞社 編	民力 2012年版	朝日新聞社 2012
荒賀直子他編	公衆衛生看護学.Jp 第3版(3刷)	インターメディカル 2013
奥山則子他	Public Health Nursing in Japan 標準保健師講座 1 地域看護学概論	医学書院 2011
中村裕美子他	標準保健師講座 2 地域看護技術	医学書院 2009
中谷芳美他	標準保健師講座 3 対象別地域看護活動	医学書院 2008

<実習スケジュール>

Aコース選択学生	2013. 4. 11 (木) I～V限	学内コース別オリエンテーション
Bコース選択学生	2013. 4. 15 (月) I～V限	学内コース別オリエンテーション
全員	2013. 4. 18 (木) III～V限	実習機関別オリエンテーション
A-1・B-1	2013. 5. 7 (火)～5.17 (金)	 各区保健所・保健センターおよび 訪問看護ステーション等
A-2・B-2	2013. 5.20 (月)～5.31 (金)	
A-3・B-3	2013. 6. 3 (月)～6.14 (金)	
A-4・B-4	2012. 6.17 (月)～6.28 (金)	

〔精神看護学実習〕

科目責任者 田中 美恵子

科目担当者 田中 美恵子、小山 達也、嵐 弘美、
異儀田はづき、飯塚あつ子

目的

精神看護学で学んだ知識・技術を応用した看護実践活動を通して、精神保健・医療・福祉並びに精神障害者に対する理解を深めながら看護の役割について考え、精神に障害を持つ人に対する看護実践能力を養う。

到達目標

1. 精神に障害を持つ人の心を、生物・心理・社会的観点から理解する。
 - 1) 発病に至った経緯を生物・心理・社会的観点から説明できる。
 - 2) 発達段階を考慮し、精神状態や精神症状を査定できる。
 - 3) 行動レベルでの変化を把握できる。
 - 4) 健康な精神活動を把握できる。

2. 生活者としての精神障害者を理解する。
 - 1) 生活者としての精神障害者の人権について理解する。
 - 2) 精神状態の生活行動（セルフケア）への影響を査定できる。
 - 3) 入院生活が精神障害者の生活に及ぼしている影響を把握できる。
 - 4) 社会制度・社会的諸条件が、精神障害者の生活に及ぼしている影響を把握できる。

3. 対人関係的関わりを通して、精神障害者の生活援助を実践できる。
 - 1) 対人関係論の知識・技術を応用し、対象者と治療的人間関係を築くことができる。
 - 2) 対象者との関係を展開し、自己洞察を通して評価できる。
 - 3) 対象者のセルフケアレベルを査定し、対象者に応じたセルフケア援助を実践することができる。
 - 4) 社会資源を活用し、対象者の今後の生活に向けてのリハビリテーション援助を実践することができる。

4. 精神科病院並びに地域で行われている保健・医療・福祉援助について知る。
 - 1) 精神科病院で行われている各種治療的アプローチ（集団療法、作業療法、デイケア、外来、訪問看護等）について知る。
 - 2) 入院患者に利用可能な地域の社会資源（保健所、保健センター、福祉事務所、共同作業所、地域生活支援センター等）の活用について知る。
 - 3) 病院並びに地域における各種専門職と看護師との連携について知り、看護師のコーディネーション機能や役割について理解する。

大項目	中項目	小項目
I. 精神に障害を持つ人に対する理解を深める	1. 精神に障害を持つ人の心を生物・心理・社会的観点から理解する 2. 生活者としての精神障害者を理解する	1) 発病に至った経緯を生物・心理・社会的観点から説明できる 2) 発達段階を考慮し、精神状態や精神症状を査定する 3) 行動レベルでの変化を把握する 4) 健康な精神活動を把握する 1) 生活者としての精神障害者の人権について理解する 2) 精神状態の生活行動（セルフケア）への影響を査定する 3) 入院生活が精神障害者の生活に及ぼしている影響を把握する 4) 社会制度・社会的諸条件が、精神障害者の生活に及ぼしている影響を把握する
II. 精神に障害を持つ人に対する看護実践能力を養う	1. 対人関係的関わりを通して、精神に障害を持つ人の生活援助を実践する	1) 対人関係論の知識・技術を応用し、対象者と治療的人間関係を築く 2) 対象者との関係を展開し、自己洞察を通して評価できる 3) 対象者のセルフケアレベルを査定し、対象者に応じたセルフケア援助を実践する 4) 社会資源を活用し、対象者の今後の生活に向けてのリハビリテーション援助を実践する
III. 精神保健・医療・福祉に対する理解を深めながら看護の役割について考える	1. 精神科病院並びに地域で行われている保健医療・福祉援助について知る	1) 精神科病院で行われている各種治療的アプローチ（集団療法、作業療法、デイケア、外来、訪問看護等）について知る 2) 入院患者に利用可能な地域の社会資源（保健所、保健センター、福祉事務所、共同作業所等）の活用について知る 3) 病院並びに地域における各種専門職と看護師との連携について知り、看護師のコーディネーション機能や役割について理解する

実習方法

精神科病院および地域社会資源にて実習を行う（精神看護学実習要項を参照）。

評価方法

出席状況、看護実践、実習記録、学習態度などにより総合的に評価を行う。

教科書

なし

〔精神看護学実習〕

科目責任者：田中美恵子

4月17日(水)2限(10:35～12:00)	オリエンテーション
-------------------------	-----------

Iクール	5月 7日(火)～5月17日(金)	病棟実習・作業所実習
IIクール	5月20日(月)～5月31日(金)	病棟実習・作業所実習
IIIクール	6月 3日(月)～6月14日(金)	病棟実習・作業所実習
IVクール	6月17日(月)～6月28日(金)	病棟実習・作業所実習

*2週間の期間中に計10日間の実習を行う

〔統合実習〕

科目責任者 水野 敏子
 科目担当者 水野 敏子、伊藤 景一、小川久貴子、佐藤 紀子、下平 唯子、
 田中美恵子、日沼 千尋、守屋 治代、金子真理子、菊池 昭江、
 近藤 暁子、関森みゆき、中田 晴美、吉田 澄恵、青木 雅子、
 嵐 弘美、犬飼かおり、奥野 順子、落合 亮太、加藤 京里、
 草柳かおる、見城 道子、小山 達也、小山千加代、坂井 志麻、
 竹内 道子、服部真理子、原 三紀子、原田 通予、益田美津美、
 宮内 清子、味木 由佳、天野 陽子、飯塚あつ子、飯塚 幸恵、
 異儀田はづき、井上 友里、遠藤 直子、小林 礼実、櫻田 章子、
 清水 信輔、鈴木香緒理、田幡 純子、成澤 明、原 美鈴、
 原沢のぞみ、三浦美奈子、山内 英樹

目的

4年間で学習した知識と技術を統合し、自ら選択した看護専門領域において、臨床実践を中心に学習し、保健医療福祉チームの一員として看護を統合的かつ継続的に展開して、看護の実践力を高める。

到達目標

1. 看護専門領域における対象者の特性について説明することができる。
2. 看護専門領域における対象者の看護の必要性について説明することができる。
3. 看護専門領域における対象者の特性をふまえた専門性のある看護を実践できる。
4. 看護専門領域における対象者に必要な看護を、基本的看護技術を活用して実践できる。
5. 看護専門領域における対象者の看護の継続性について説明することができる。
6. 看護チームの一員としての役割を担い、行動できる。
7. 保健医療福祉チームにおける他職種との協働について説明することができる。
8. 統合実習における看護実践を通して、社会における看護の役割について説明することができる。
9. 統合実習における看護実践を通して、社会の一員として倫理的に行動できる。
10. 統合実習における看護実践を通して、看護専門領域における課題に取り組み自らの能力を拡大できる。

大項目	中項目	小項目
I. 看護専門領域における看護の統合的実践	1. 対象の特性の理解 2. 看護専門領域における対象者の看護の理解 3. 対象の特性をふまえた専門性のある看護の実践	1) 発達段階、健康レベル 2) 対象者の生活を取り巻く環境 1) 対象者の発達段階、健康状態、生活の査定 2) 対象者の看護ニーズの優先度の決定 1) 対象者の特性をふまえた看護過程を用いた看護の展開 2) 個別性の高い看護の実践 3) 地域社会における生活場所を想定した看護の実践 4) 対象者の意思決定を促す援助 5) 対象者の権利を尊重した援助 6) 対象者に必要な基本的看護技術を活用した実践

統合実習

大項目	中項目	小項目
	4. 看護の継続性の実践的な理解	1) 日勤帯と夜勤帯の連携した看護 2) 地域社会における生活場所の想定と連携の必要性
II.保健医療福祉チームとしての統合的な看護	1. 看護チームの一員としての行動 2. 看護の専門的役割に基づく他職種との協働の理解	1) 受け持ち対象者の情報提供 2) 受け持ち対象者の援助をチームに要請 3) 受け持ち以外の対象者の情報提供 4) 受け持ち以外の対象者の看護をチームに相談しながら可能な範囲で実践 5) チームカンファレンスの企画・運営・評価 6) チームにおけるコミュニケーションの重視 1) 社会資源・地域を活用した取り組み 2) 他職種と連携した対象に必要な保健医療福祉の理解 3) 連携機関・施設との効果的な関わり
III. 統合実習をふまえた今後の自己能力の拡大	1. 社会の一員としての自覚 2. 自己の能力を拡大させる取り組み	1) 社会における看護の役割の理解 2) 社会の規範に従った倫理的行動 1) 既習の学びの総合的活用 2) 創造的思考に基づく課題解決 3) 看護専門領域における課題の探究

実習方法

実習到達目標に沿い、各領域の実習方法に従い実習を行う（統合実習要項を参照のこと）。

評価方法

実習到達目標の達成状況（記録物も含む）、出席（規定による）、日々の実習への取り組み（実習態度）の観点から総合的に行う。

参考図書

担当教員より別途指示する（統合実習要項を参照のこと）。

講義スケジュール

2013.7.8(月)～7.19(金)	臨床実習
---------------------	------

〔コミュニケーションの理論と実際〕（選択科目）

科目責任者 川上 華代
 科目担当者 川上 華代、大島みどり

目的

事例や演習を通して、医療現場におけるコミュニケーションやカウンセリングに対する理解を深め、医療の専門家として必要不可欠なコミュニケーション能力を身につける。

到達目標

1. 心理学的な視点からコミュニケーションの定義や種類について説明できる。
2. 援助やサポートにおけるコミュニケーションの意義や役割について説明できる。
3. チームや組織での活動におけるコミュニケーションの意義や役割について説明できる。
4. 医療におけるカウンセリングの意義、目的、方法について説明ができる。
5. コミュニケーションにおける自己表現の方法を学び、円滑な自己表現について説明ができる。
6. ストレスのメカニズムおよびストレスマネジメントの意義、目的、方法について説明ができる。

大項目	中項目	小項目
I. コミュニケーションの理論	1. 対人コミュニケーション	1) コミュニケーションとは 2) 言語的・非言語的コミュニケーション 3) 「話すこと」「聴くこと」
	2. 組織におけるコミュニケーション	1) 集団・組織のコミュニケーション 2) チームでの援助とコンサルテーション 3) 援助とサポート：援助要請の視点から
II. コミュニケーションの実際	1. カウンセリングの実際	1) 子どものカウンセリング 2) 医療におけるカウンセリング
	2. アサーショントレーニングとは	1) さまざまな形の自己表現 2) アサーショントレーニングの実際
	3. ストレスマネジメントとは	1) ストレスの影響とストレス反応 2) ストレスコーピングなど 3) 医療におけるストレスマネジメント

評価方法：講義への出席、授業内レポート、学科試験によって総合的に評価する。

教科書

特に指定しない

参考図書

適宜紹介する

<講義スケジュール>

1	2013.9.10	火	13:00～14:25	大島みどり	コミュニケーションとは
2	9.10	火	14:35～16:00	大島みどり	言語的・非言語的コミュニケーション
3	9.13	金	13:00～14:25	川上 華代	子どものカウンセリング
4	9.13	金	14:35～16:00	川上 華代	医療におけるカウンセリング
5	9.17	火	13:00～14:25	大島みどり	「話すこと」「聴くこと」①
6	9.17	火	14:35～16:00	大島みどり	「話すこと」「聴くこと」②
7	9.20	金	13:00～14:25	川上 華代	さまざまな形の自己表現
8	9.20	金	14:35～16:00	川上 華代	アサーショントレーニングの実際
9	9.24	火	13:00～14:25	大島みどり	集団・組織のコミュニケーション
10	9.24	火	14:35～16:00	大島みどり	チームでの援助とコンサルテーション
11	9.27	金	13:00～14:25	川上 華代	ストレスの影響とストレス反応
12	9.27	金	14:35～16:00	川上 華代	ストレスコーピングなど
13	10.1	火	13:00～14:25	大島みどり	援助とサポート：援助要請の視点から
14	10.4	金	13:00～14:25	川上 華代	医療におけるストレスマネジメント
15	10.4	金	14:35～16:00	川上・大島	試験

人間性を育む

〔英語Ⅲ〕（選択科目）

科目責任者 木村みどり

科目担当者 木村みどり、遠藤 美香

目的

医療分野の国際化に対応するために、海外における最新情報を入手できる英語講読力をつけ、病院においては英語で患者と対応できる会話力をつける。

到達目標

1. 専門文献の購読力をつける。
2. 病院で英語を話せるナースになる。

看護英会話

(担当者 木村みどり)

1. 臨床で使用される看護英単語を理解できる。
2. 看護の現場における英会話ができる。

大項目	中項目	小項目
英語演習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床実習での会話力の向上 2. 臨床実習に必要な専門用語の復習 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 初診時の患者の状況 2) 患者の家族、背景の説明 1) 患者の病状の変化 2) 治療の経過 3) 病院案内

評価方法：単語小テストー20%、最終テストー80%で評価する。但し、出席が3分の2未満の場合は、最終テストを受ける事ができない。

教科書

知念クリスティーン
迫 和子

クリスティーンのレベルアップ看護英会話

医学書院

2001

英語Ⅲ

文献講読

(担当者 遠藤 美香)

このクラスの目標は、看護学及びその関連分野について英語で書かれた文献を読むために必要な基礎力を確認し、目的に合った読解力を定着させることである。授業では、速読、精読、および要旨文の書き方の演習を行う。また、医療専門用語の語彙増強をはかる。

大項目	中項目	小項目
専門領域の文献 講読	1. 速読 2. 要旨文 3. 精読 4. 医療専門用語	1) 欧米の医療現場 2) 予防医療 3) 医療英語、語形成、略語

評価方法：講義への出欠、小テスト、試験

教科書

なし、演習用プリント配布

参考図書

Rebecca Brown	Excerpts from a Family Medical Dictionary	The University of Wisconsin Press	2001
Martha J. Franklin	Guide to Professional Nursing	メヂカルフレンド社	2000
	Dictionary of Nursing	Oxford University Press	2008
佐藤登志郎 監修	スタンダード医学英和辞典 2版	南山堂	2008
藤枝宏壽 他編	これだけは知っておきたい 医学英語の基本用語と表現 増補改訂版	メジカルビュー社	2004
平野美津子	看護師たまごの英語 40 日間トレーニングキット	アルク	2008
菱田治子 著	(CD 付属) (医学英語シリーズ③)		

<講義スケジュール>

1	2013.9.11	水	14:35～16:00	遠藤 美香	Introduction
2	9.18	水	14:35～16:00	遠藤 美香	Reading III-1
3	10.2	水	14:35～16:00	遠藤 美香	Reading III-2
4	10.9	水	14:35～16:00	遠藤 美香	Reading III-3
5	10.16	水	14:35～16:00	遠藤 美香	Reading III-4
6	10.18	金	13:00～14:25	遠藤 美香	Reading III-5
7	10.23	水	14:35～16:00	遠藤 美香	Reading III-6
8	10.29	火	13:00～14:25	木村みどり	Unit 1 : Do you work on the surgical ward? Activity 1～4
9	10.30	水	14:35～16:00	遠藤 美香	Reading III-7
10	11.5	火	13:00～14:25	遠藤 美香	Reading III-8
11	11.5	火	14:35～16:00	木村みどり	Unit 1 : Activity 5 Unit 2 : What's your problem today?
12	11.8	金	13:00～14:25	木村みどり	Unit 2 : Activity 4&5 Unit 3 : This is the nurses' station. Activity 1&2
13	11.8	金	14:35～16:00	木村みどり	Unit 3 : Activity 3～5
14	11.12	火	13:00～14:25	遠藤 美香	Reading III-9
15	11.12	火	14:35～16:00	木村みどり	Unit 4 : Are you suffering from any illnesses? Activity 1～4
16	11.15	金	9:00～10:25	木村みどり	Unit 4 : Activity 5 Unit 5 : You need to have an MRI. Activity 1&2
17	11.19	火	13:00～14:25	遠藤 美香	Reading III-10
18	11.19	火	14:35～16:00	木村みどり	Unit 5 : Activity 3～5
19	11.22	金	9:00～10:25	木村みどり	Unit 6 : You're going to have a baby! Activity 1～4
20	11.22	金	10:35～12:00	木村みどり	Unit 6 : Activity 5 Unit 7 : My baby has a fever. Activity 1&2
21	11.26	火	13:00～14:25	遠藤 美香	Reading III-11
22	11.26	火	14:35～16:00	木村みどり	Unit 7 : Activity 3～5
23	11.29	金	13:00～14:25	木村みどり	Unit 8 : Your surgery will be tomorrow at 10 a.m. Activity 1～4
24	11.29	金	14:35～16:00	木村みどり	Unit 8 : Activity 5 Unit 9 : How are you feeling? Activity 1&2
25	12.3	火	13:00～14:25	遠藤 美香	Reading III-12
26	12.3	火	14:35～16:00	木村みどり	Unit 9 : Activity 3～5 Unit 10 : Are you worried about anything? Activity 1&2
27	12.6	金	13:00～14:25	木村みどり	Unit 10 : Activity 3～5
28	12.6	金	14:35～16:00	木村みどり	試験
29	12.10	火	13:00～14:25	遠藤 美香	Reading III-13
30	12.10	火	14:35～16:00	遠藤 美香	試験

〔英語Ⅳ〕（選択科目）：ハワイ大学

科目責任者：木村みどり

科目担当者：木村みどり

目的

実体験を通して、英語によるコミュニケーション、ハワイ州およびアメリカの医療、歴史、文化、伝統、社会状況を学ぶ

到達目標

1. 簡単な会話を英語で行うことができる。
2. ハワイ・パシフィック大学（HPU）での講義を、できるだけ英語で理解する。
3. 英語で日本を紹介するプレゼンテーションをすることができる。
4. 日米の歴史のつながりについて理解する。

大項目	中項目	小項目
I.スピーキング	1. 海外生活のための英会話	1) 飛行場や税関における英会話 2) ホテルにおける英会話 3) 様々な交通手段を利用するときの英会話 4) 買い物をするときの英会話
	2. 英語によるスピーチ	1) 自分や家族、東京女子医科大学について話す 2) 日本の医療について話す 3) 与えられたテーマについて話す
II.リスニング	3. 必要な情報を英語で聞き取る	1) 日常生活におけるコミュニケーション 2) アメリカやハワイの歴史 3) アメリカの医療

評価方法：日本での事前研修態度、HPUでの授業態度、プレゼンテーションの成果
ハワイでの街頭インタビュー(6人以上)の総合

教科書

特に指定せず、必要に応じてプリントを配布する

参考資料

佐藤 公雄 編著 First Time Abroad 「初めての海外旅行」 成美堂 1997
その他、必要に応じてプリントを配布する

<講義スケジュール>

1	2013. 7.6	土	9:00~10:25	木村みどり	壮行会 (HPU & Alverno)
2	7.6	土	10:35~12:00	木村みどり	旅行社オリエンテーション (情報実習室)
3	7.16	火	9:00~10:25	木村みどり	自己紹介の練習
4	7.16	火	10:35~12:00	木村みどり	オリエンテーション(含:旅行社)
5	7.16	火	13:00~14:25	木村みどり	インタビューの練習
6	7.16	火	14:35~16:00	木村みどり	ハワイの歴史について学ぶ
7	7.17	水	9:00~10:25	木村みどり	日系移民・日米戦争について学ぶ
8	7.17	水	10:35~12:00	木村みどり	各グループによるプレゼンテーションの練習(1)
9	7.17	水	13:00~14:25	木村みどり	各グループによるスピーチの練習(2)
10	7.18	木	9:00~10:25	木村みどり	各グループによるスピーチの練習(3)
11	7.18	木	10:35~12:00	木村みどり	各グループによるプレゼンテーションの練習(4)
12	7.19	金	9:00~10:25	木村みどり	各グループによるプレゼンテーションの練習(5)
13	7.19	金	10:35~12:00	木村みどり	各グループによるプレゼンテーションの練習(6)
14	7.23	火	19:00頃		出発
15					グループ・プレゼンテーションの練習(7) ハワイ・パシフィック大学にて授業 英語によるグループ・プレゼンテーション クイーンズ・メディカルセンター訪問 ハワイについて調査したことの復習 フィールドワーク
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28	7.30	火	16:00頃		帰国
29	10.19	土	13:00~14:25	木村みどり	帰国報告会の準備
30	10.19	土	14:35~16:00	木村みどり	帰国報告会

〔英語Ⅳ〕（選択科目）：アルバーノ大学

科目責任者：木村みどり

目的

国際的に活躍できる医療従事者になるための勉強と経験を積む。本学を代表する学生として、提携校であるアルバーノ大学の授業や看護実習に参加し、国際交流を図る。

到達目標

1. 日常英会話ができる。
2. 基本的な看護英語を理解し使える。
3. 英語による看護の授業を理解できる。
4. 日本における看護事情や社会情勢、文化について英語で話せる。

大項目	中項目	小項目
Ⅰ. 医療従事者として国際的に通用する英語力をつける	1. アルバーノ大学での授業を理解する	1) 必要な情報を英語で聞き取る 2) 自分の考えを英語で発表する 3) 日本の看護事情について話す 4) 医療トピックについてディスカッションする
	2. 看護実習病院で英語によるコミュニケーションを行なう	1) Medical Terms 増強 2) さまざまな医療関係のトピックを学ぶ
Ⅱ. 国際人としての視野を広げる	1. アルバーノ大学の学生と交流する	1) 日常英会話の実践 2) アルバーノ・カレッジや外国からの学生と交流を持ち、意見を交換する。

評価方法：研修前の日本での授業におけるテスト、アルバーノ大学よりの報告書、帰国報告プレゼンテーションの総合

教科書

特に指定せず、必要に応じてプリントを配布する

参考資料

- | | | | |
|------------------------------|---|-----|------|
| 行時 潔/Daniel Droukis | Experience an English Program! 語学留学に行こう | 松柏社 | 2006 |
| Steven Widdows, Peter Voller | CHATTERBOX | 南雲堂 | 2006 |
- その他、必要に応じて、プリント配布

<講義スケジュール>

1	2013. 7.6	土	9:00~10:25	木村みどり	壮行会
2	7.6	土	10:35~12:00	木村みどり	旅行社オリエンテーション
3	8.7	水	9:00~10:25	木村みどり	Health Assessment-Community, Family, Individual
4	8.7	水	10:35~12:00	木村みどり	Nursing Theory of acutely & chronically Ill Populations
5	8.8	木	9:00~10:25	木村みどり	Physiological Mechanisms & Disease
6	8.8	木	10:35~12:00	木村みどり	Overview of Alverno College
7	8.9	金	9:00~10:25	木村みどり	Vulnerable people
8	8.9	金	10:35~12:00	木村みどり	スピーチ、Presentation 練習 看護英語の復習
9	8.19	月	9:00~10:25	木村みどり	Nutrition in wellness 看護英語の復習
10	8.19	月	10:35~12:00	木村みどり	スピーチ、Presentation 練習 看護英語の復習
11	8.20	火	9:00~10:25	木村みどり	スピーチ、Presentation 練習 看護英語の復習
12	8.20	火	10:35~12:00	木村みどり	スピーチ、Presentation 練習 看護英語の復習
13	8.21	水	9:00~10:25	木村みどり	スピーチ、Presentation 練習 看護英語の復習
14	8.21	水	10:35~12:00	木村みどり	スピーチ、Presentation 練習 看護英語の復習
15	8.22	木	9:00~10:25	木村みどり	スピーチ、Presentation 練習 看護英語の復習
16	8.22	木	10:35~12:00	木村みどり	総合復習 & 留学直前 オリエンテーション
17	8.23	金	9:00~10:25	木村みどり	総合復習 & 留学直前 オリエンテーション
18				木村みどり	アルバーノ大学にて授業および実習
19				木村みどり	
20				木村みどり	
21				木村みどり	
22				木村みどり	
23				木村みどり	
24				木村みどり	
25				木村みどり	
26				木村みどり	
27				木村みどり	
28				木村みどり	
29	10.19	土	13:00~14:25	木村みどり	帰国報告まとめ
30	10.19	土	14:35~16:00	木村みどり	帰国報告会

〔パフォーマンス芸術論〕（選択科目）

科目責任者 中川 聖子

目的

さまざまな舞台作品を鑑賞し、ダンスの演習・実技を通して、身体の使い方や身体表現を実践し、自身の「からだ」や他者の「からだ」について文化的・動作的理解を深める。

到達目標

1. パフォーマンス芸術の変遷について理解できる。
2. さまざまな国、さまざまなジャンルのパフォーマンス芸術について、文化的・動作的な特徴を理解できる。
3. 表現するための身体として、必要なトレーニング方法や表現方法を理解し実践できる。
4. 表現する他者とのかかわりの中で、パフォーマンス作品として成立していく過程を理解し実践できる。

大項目	中項目	小項目
I. パフォーマンス芸術に関する概要 (授業のガイドライン)	1. パフォーマンスとは 2. ダンスとは 3. 舞台とは	1) パフォーマンス芸術の歴史の変遷 2) パフォーマンス芸術の最近の動向
II. ダンス作品の見方 I	1. 作品の目的と表現法	1) ブロードウェイ ダンス作品 2) クラシックバレエ作品
III. ダンストレーニングにおける身体の使い方 (実技)	1. 姿勢 2. 柔軟性	1) 基本姿勢 2) ストレッチ エクササイズ
IV. ダンス作品の見方 II	1. 舞台構成について	1) コンテンポラリー作品
V. ダンス演習 I (実技)	1. 柔軟性 2. 身体の使い方	1) フロア エクササイズ 2) バー エクササイズ
VI. ダンサーと振り付けについて	1. 作品構成について	1) ダンサーの魅力について 2) 振り付けと作品製作
VII. ダンス演習 II (実技)	1. 柔軟性 2. 身体の使い方	1) フロア エクササイズ 2) コンビネーション ダンス
VIII. ダンス作品の見方 III	1. 劇場での鑑賞法	1) 劇場とは？劇場の使用法 2) 舞台の仕組み 衣装
IX. ダンス演習 III (実技)	1. 柔軟性 2. 身体の使い方	1) フロア エクササイズ 2) コンビネーション ダンス
X. ダンス作品の見方 IV	1. トレーニングの有効性について	1) ダンスのトレーニング法 2) クラシックバレエのトレーニング法

大項目	中項目	小項目
XI. ダンス演習Ⅳ（実技）	1. 作品の実演	1) フロア エクササイズ 2) コンビネーション ダンス
XII. ダンス作品の見方Ⅴ	1. 作品の比較	1) 日本の舞踊について
XIII. ダンス演習Ⅴ（実技）	1. 作品の実演	1) フロア エクササイズ 2) コンビネーション ダンス
XIV. まとめ	1. 作品の比較	1) 身体表現と芸術性について総論
XV. まとめ（実技）	1. 実演・鑑賞	1) コンビネーションのまとめ ダンス作品として

評価方法：出席点（75点：5点×15回）、レポート点（10点）、実技点（10点）、態度点（5点）
以上4項目における総合点から成績評価を行なう。

<講義スケジュール>

1	2013.10.3	木	13:00~14:25	中川 聖子	パフォーマンス芸術に関する概要 (授業のガイドライン)
2	10.10	木	13:00~14:25	中川 聖子	ダンス作品の見方Ⅰ
3	10.10	木	14:35~16:00	中川 聖子	ダンストレーニングにおける身体の使い方 (実技)
4	10.17	木	13:00~14:25	中川 聖子	ダンス作品の見方Ⅱ
5	10.17	木	14:35~16:00	中川 聖子	ダンス演習Ⅰ (実技)
6	10.31	木	13:00~14:25	中川 聖子	ダンサーと振り付けについて
7	10.31	木	14:35~16:00	中川 聖子	ダンス演習Ⅱ (実技)
8	11.7	木	13:00~14:25	中川 聖子	ダンス作品の見方Ⅲ
9	11.7	木	14:35~16:00	中川 聖子	ダンス演習Ⅲ (実技)
10	11.14	木	13:00~14:25	中川 聖子	ダンス作品の見方Ⅳ
11	11.14	木	14:35~16:00	中川 聖子	ダンス演習Ⅳ (実技)
12	11.21	木	13:00~14:25	中川 聖子	ダンス作品の見方Ⅴ
13	11.21	木	14:35~16:00	中川 聖子	ダンス演習Ⅴ (実技)
14	11.28	木	13:00~14:25	中川 聖子	まとめ
15	11.28	木	14:35~16:00	中川 聖子	まとめ (実技)

〔国際関係論〕（選択科目）

科目責任者 遠藤 弘良

科目担当者 遠藤 弘良、塚原 高広、櫻井 美樹

目的

世界の保健問題の現状を様々な視点から理解を深めるとともに、看護を担う者として、国際人としての感覚を養い、国境を越え、人々の健康と福祉に役立つための基礎を学ぶ。

到達目標

1. 途上国を中心とした世界の健康の現状を説明できる。
2. 国際協力の仕組み（二国間協力、多国間協力等）と看護分野の協力の現状と課題を説明できる。
3. 国際保健の社会的側面として医療人類学、リプロダクティブヘルスの概念について説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 国際保健	1. 世界の保健問題(総論) 2. 世界の保健問題(各論)	1) 健康の現状 a) 母子保健 b) 感染症 c) 慢性疾患 2) 国際協力 a) 二国間協力 b) 多国間協力 1) 社会医学からみた各論 a) 医療の多元性と文化 b) ヘルスケアシステム c) セルフケアと伝統医療 d) 住民の健康希求行動とヘルスケアシステムの利用 2) 国際協力各論 a) 看護分野の国際協力 b) 異文化理解と国際協力 c) NGOの活動 3) リプロダクティブヘルス・ライツ a) 歴史と定義 b) 妊産婦死亡と安全な出産（世界の今までの取り組み） c) 日本の新たな取り組み d) ケーススタディ

評価方法

講義への出席、課題レポートにより評価を行う

教科書

なし

国際関係論

参考図書

ユニセフ	世界子供白書 2009 妊産婦と新生児の保健	日本ユニセフ協会	2009
世界銀行	世界開発報告 2012 変わりつつある世界経済地理	一灯舎	2012
竹内勤 他	国際保健の優先課題	保健同人社	2007
中村安秀 編	国際保健医療のお仕事 改訂 2 版	南山堂	2008
吉田敬三 編	なぜ医師たちは行くのか? 国際医療ボランティアガイド	羊土社	2003
バッシュ	国際保健学講座	じほう	2001
小早川隆敏 編	国際保健医療協力入門	国際協力出版会	1998
小早川隆敏 編著	感染症マニュアル 第 4 版	スパイラル出版	2005
日本国際保健医療学会 編	国際保健医療学 第 2 版	杏林書院	2005
我妻堯	リプロダクティブヘルス	南江堂	2002
田村やよひ 編	国際看護学 第 2 版	メヂカルフレンド社	2012

＜講義スケジュール＞

1	2013.10.2	水	9:00～10:25	遠藤 弘良	国際保健(1)
2	10.2	水	10:35～12:00	遠藤 弘良	国際保健(2)
3	10.7	月	13:00～14:25	遠藤 弘良 _他	国際保健(3)
4	10.7	月	14:35～16:00	遠藤 弘良 _他	国際保健(4)
5	10.9	水	9:00～10:25	塚原 高広	国際保健(5)
6	10.9	水	10:35～12:00	塚原 高広	国際保健(6)
7	10.15	火	13:00～14:25	櫻井 美樹	国際保健(7)
8	10.18	金	14:35～16:00	遠藤 弘良 _他	国際保健(8)

各専門領域への発展

〔リエゾン精神看護〕

科目責任者 田中美恵子

科目担当者 西川 律子、尾崎 恭子、山内 典子
安田 妙子

目的

精神看護学の一専門領域としてのリエゾン精神看護の位置づけ・目的と機能を理解し、身体疾患をもつ対象の精神の健康問題とそれに対する看護援助、看護師のメンタルヘルスとそのサポート、さらに看護アプローチの技法について学ぶ。

到達目標

1. 精神看護学の一専門領域としてのリエゾン精神看護の位置づけ・目的・機能について説明できる。
2. 身体疾患をもつ対象の精神の特徴およびアセスメントの方法について説明できる。
3. せん妄、抑うつ、不安の3つの精神状態について説明できる。
4. 直接ケアおよびコンサルテーションのプロセスや方法、役割について説明できる。
5. 看護師のメンタルヘルスの特徴およびリエゾン精神専門看護師が行う支援について説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. リエゾン精神看護とは	1. リエゾン精神看護の目的と機能	1) リエゾン精神看護の位置づけ 2) リエゾン精神看護の目的 3) リエゾン精神看護の機能 4) 理論的枠組み 5) 歴史および制度
II. 対象の理解	1. 対象の特徴とアセスメント	1) 対象の特徴 2) アセスメント
III. 精神症状の理解	1. せん妄 2. 抑うつ・不安	1) せん妄の病態と治療 2) 抑うつ・不安の特徴とケア
IV. 看護活動の実際	1. 患者／家族の直接ケア① 2. 患者／家族の直接ケア② 3. コンサルテーション 4. 看護師のメンタルヘルスの支援	1) 患者／家族の問題の特徴 2) 患者／家族のケアの実際 1) コンサルテーションとは 2) コンサルテーションの実際 1) 看護師のメンタルヘルスの特徴 (リアリティショック、バーンアウトなど) 2) メンタルサポートの実際

評価方法

出席状況、試験

教科書

野末聖香 編

リエゾン精神看護 ―患者ケアとナース支援のために―

医歯薬出版

2004

リエゾン精神看護

<講義スケジュール>

1	2013.10.16	水	9:00～10:25	山内 典子	リエゾン精神看護の対象の理解
2	10.23	水	13:00～14:25	安田 妙子	リエゾン精神看護とは（定義・目的・理論的枠組み・歴史と制度）
3	10.31	木	10:35～12:00	西川 律子	看護活動の実際 1：患者/家族の直接ケア①
4	11.7	木	10:35～12:00	西川 律子	看護活動の実際 2：患者/家族の直接ケア②
5	11.14	木	10:35～12:00	西川 律子	看護活動の実際 3：コンサルテーション
6	11.21	木	10:35～12:00	西川 律子	看護活動の実際 4：看護師のメンタルヘルスの支援
7	11.25	月	13:00～14:25	尾崎 恭子	術後せん妄
8	12.2	月	9:00～10:25	山内 典子	試験

〔国際看護〕（選択科目）

科目責任者：下平 唯子

科目担当者：下平 唯子、近藤 暁子、味木 由佳

目的

国際看護に関する知識を深め、国内外において看護ニーズを持つ様々な文化背景の人々への理解を深め、適切な看護を提供する上で、看護職者に必要とされる基本的な概念の理解と国際的視点について学ぶ。

到達目標

1. 国際看護の理念について説明できる。
2. 国際協力や国際保健協力活動のありかたについて考えることができる。
3. 世界の看護の動向を理解し、今後の課題について考えることができる。
4. さまざまな文化背景や状況にある人々の看護を考えることができる。
5. 諸外国の看護教育制度や保険医療制度の特徴を理解し、健康問題について考えることができる。
6. 諸外国での研修を通して国際的な視点で看護を考えることができる。

大項目	中項目	小項目
I. 国際看護	1. 看護とグローバル化 2. 国際看護学とは	1) グローバリゼーションの中の健康 2) グローバルヘルス、国際保健
II. 世界の看護の動向	1. 世界が直面している健康問題 2. 国際協力の世界的動向 3. 看護の動向	1) ミレニアム開発目標 2) 貧困と健康問題、先進国の健康問題 1) 人間の安全保障 2) 国際協力における日本の役割 1) 看護実践上の問題点
III. 多文化理解と看護	1. フィリピン先住民族の生活と健康 2. 日本における路上生活者の健康問題	1) アニミズムと健康 2) 病気の原因、健康観 1) 路上生活者の健康観や死生観 2) 生活の実態と身体・心理的健康問題
IV. 国際保健協力活動	1. 国際保健協力活動の実際	1) 国際協力の目的、 2) ネパールにおける口唇口蓋裂治療プロジェクト
V. 看護教育制度・保険医療制度	1. 国際比較	1) 日米の看護教育制度・保険医療制度の特徴 2) 米国における高度実践看護師制度
VI. 海外研修	1. 多文化理解と看護	1) ハワイ・パンフィック大学、アルバーノ大学、韓国梨花女子大での研修

評価方法：出席状況、海外研修の参加度、レポート、発表

参考図書

人間の安全保障委員会：安全保障の今日的課題、朝日新聞社、2003

国際看護研究会 編：国際看護学入門、医学書院、1999

系統看護学講座 災害看護・国際看護学、医学書院、2010

100人村教材編集委員会：世界がもし100人の村だったら、開発教育協会、2006

国連広報センター：プレスリリース（週報）

国際看護

<講義スケジュール>

1	2013.4.19	金	9:00~10:25	下平 唯子	オリエンテーション、国際看護総論
2	4.19	金	10:35~12:00	下平 唯子	世界がもし100人の村だったら
3	4.23	火	9:00~10:25	下平 唯子	世界の看護の動向
4	4.23	火	10:35~12:00	下平 唯子	多文化理解と看護
5	4.26	金	9:00~10:25	味木 由佳	ネパールにおける国際協力
6	4.26	金	10:35~12:00	味木 由佳	口唇口蓋裂治療プロジェクトに参加して
7	4.26	金	13:00~14:25	近藤 暁子	日米の看護教育制度の特徴
8	7.1	月	9:00~10:25	近藤 暁子	日米の保険医療制度の特徴
9	7.1	月	10:35~12:00	下平/近藤	HPU大学・アルバーノ大学研修準備
10	7.2	火	9:00~10:25	近藤 暁子	米国・世界の高度実践看護師（APN）制度
11	7.2	火	10:35~12:00	下平/近藤	HPU大学・アルバーノ大学研修準備
12	7.3	水	9:00~10:25	下平/近藤	国際交流演習
13					(13:00-14:00 壮行会)
14					
15					
16					
17					
18					
19					7.23~7.30 (HPU研修)
20					8月下旬~9月上旬 (アルバーノ大学研修) *
21					3月上旬 (韓国梨花女子大学研修) *
22					
23					
24					
25					
26	9.5	木	9:00~10:25	下平/近藤	研修レポート作成
27	9.5	木	10:35~12:00	下平/近藤	研修レポート作成
28	9.6	金	9:00~10:25	下平/近藤	研修レポート作成
29	10.19	土	13:00~14:25	下平/近藤	海外研修帰国報告会(次年度国際看護履修希望者も参加可能)
30	10.19	土	14:35~16:00	下平 唯子	最終評価

* 海外研修のアルバーノ・梨花女子大学参加希望者は英語Ⅳの該当科目を聴講すること

〔卒業論文〕（選択科目）

科目責任者 水野 敏子

科目担当者 水野 敏子、荒井 純子、伊藤 景一、小川久貴子、木村みどり
 佐藤 紀子、下平 唯子、田中美恵子、日沼 千尋、守屋 治代、
 柳 修平、伊東 栄子、尾崎 恭子、金子真理子、菊池 昭江、
 神山 暢夫、近藤 暁子、諏訪 茂樹、関森みゆき、中田 晴美、
 松崎 英士、吉田 澄恵、青木 雅子、嵐 弘美、犬飼かおり、
 奥野 順子、落合 亮太、加藤 京里、草柳かおる、見城 道子、
 小山 達也、小山千加代、坂井 志麻、竹内 道子、服部真理子、
 原 三紀子、原田 通予、益田美津美、宮内 清子、味木 由佳、
 天野 陽子、飯塚あつ子、飯塚 幸恵、異儀田はづき、井上 友里、
 遠藤 直子、小林 礼実、櫻田 章子、清水 信輔、鈴木香緒理、
 田幡 純子、成澤 明、原 美鈴、原沢のぞみ、三浦美奈子、
 山内 英樹

目的

各自のこれまでの看護学の学びの中で究明すべき課題を見出し、その課題に関連深い専門分野をもつ教員の指導のもとに、課題の探究に取り組む。その成果を報告するまでのプロセスを通して、生涯にわたり継続して看護の専門性を高めていくための各自の展望を、一層深く意識する機会とする。

到達目標

1. 領域の看護を探究するために文献等を用い統合実習にむけて取り組む課題について述べるができる。
2. 統合実習で取り組んだ課題を究明するために事例検討や文献検討等を行い、深められた成果について論文としてまとめ報告することができる。

大項目	中項目	小項目
課題選定	探求分野の決定	課題の発見
課題探求	課題分野の探求	課題周辺領域の事前調査 事実の観察・確認 事実の解釈・分析
論文作成	論文テーマの決定 論文作成	成果の整理 成果の記述

学習方法

- ・ 論文作成の課題抽出・探究・論文作成にあたっては、適宜担当教員の助言を受けて進める。
- ・ 卒業論文の執筆要項等は、卒業論文オリエンテーション時の資料を参照のこと。
- ・ 卒業論文の提出日時：2013年7月29日（月）13時までに学務課へ提出。

評価方法

課題への取り組み方および論文内容により総合的に行う。

参考図書

各担当教員がその都度適宜提示する。

<講義スケジュール>

1	2013.4.16	火	9:00～10:25	水野敏子 _他 * *	課題の発見1
2	4.22	月	9:00～10:25	水野敏子 _他 * *	課題の発見2
3	4.22	月	10:35～12:00	水野敏子 _他 * *	課題周辺領域の事前調査1
4	4.25	木	13:00～14:25	水野敏子 _他 * *	課題周辺領域の事前調査2
5	4.25	木	14:35～16:00	水野敏子 _他 * *	課題周辺領域の事前調査3
6	7.22	月	13:00～14:25	水野敏子 _他 * *	事実の観察・確認1
7	7.22	月	14:35～16:00	水野敏子 _他 * *	事実の観察・確認2
8	7.23	火	13:00～14:25	水野敏子 _他 * *	事実の解釈・分析1
9	7.23	火	14:35～16:00	水野敏子 _他 * *	事実の解釈・分析2
10	7.24	水	13:00～14:25	水野敏子 _他 * *	成果の整理1
11	7.24	水	14:35～16:00	水野敏子 _他 * *	成果の整理2
12	7.25	木	13:00～14:25	水野敏子 _他 * *	成果の記述1
13	7.25	木	14:35～16:00	水野敏子 _他 * *	成果の記述2
14	7.26	金	13:00～14:25	水野敏子 _他 * *	成果の記述3
15	7.26	金	14:35～16:00	水野敏子 _他 * *	成果の記述4

*科目担当者を参照

〔キャリア発達論Ⅳ〕

科目責任者 吉田 澄恵
 科目担当者 佐藤 紀子、吉田 澄恵、草柳かほる、
 山内 英樹、宮崎 俊一、川野 良子、
 (医学部)岡田 みどり、矢口 有乃、
 土田 友章、吉岡 俊正、小野 昌美、
 徳重 克年、大澤真木子、齋藤加代子

科目の目的

キャリアを「生涯を通しての人の生き方」と定義し、看護学を学ぶことを選択した成人として、自己のキャリアを考え続ける基本的態度を身につける。合わせて、看護専門職者を目指すものとして、組織の中で調和しながら変革を推進し職業を継続するための基礎的な知識を学ぶ。

4年次の目的

4年間の学士課程における学習および、東京女子医科大学における医療人の養成のビジョン、大学院教育へのつながりを知り、自己のキャリアのみならず、看護職一人ひとりの多様なキャリアと統合して理解する。また、社会・組織に働きかける看護職について、看護管理の視点から理解するとともに、チーム医療と実践者としての倫理的態度について、演習・実習を組み入れながら学習する。

到達目標

1. 看護職の生涯発達について、看護職のキャリアの多様性、東京女子医科大学における医療人養成、看護学と看護実践の関連、看護職生涯発達学における研究を知ることから考え、看護職一人ひとりのキャリアについての自己の考えを述べるができる。
2. 社会・組織に働きかける看護職について知り、看護実践の場における看護管理について、自分の意見を述べるができる。
3. 臨床倫理、チーム医療に関する医学部協働教育において、考えを発展させ自分の意見を述べるができる。

大項目	中項目	小項目
I. 看護職の生涯発達	1. 看護職のキャリアとその支援	1) 看護職のキャリア 2) 【自校教育】東京女子医科大学における医療人の養成 3) 看護学と看護実践 4) 看護職生涯発達学における研究
II. 看護管理	1. 社会・組織に働きかける看護職	1) 看護職と社会 2) キャリア発達とキャリア開発 3) チェンジングエージェント 4) 看護管理者としてのビジョンと実践 5) 看護管理実習
III. 協働の基礎	1. チーム医療における協働	1) 【協働教育】生命倫理ワークショップ 2) 【協働教育】チーム医療の基礎 3) 【協働教育】患者・家族の体験

キャリア発達論Ⅳ

評価方法：授業・演習・実習への出席と参加態度、レポート等

教科書

系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実際[1]看護管理 8版 医学書院 2006

参考図書

佐藤紀子 変革期の婦長学 医学書院 1998

佐藤紀子 看護師の臨床の『知』 医学書院 2007

－看護職生涯発達学の視点から－

ダニエルF. チャンプリンス. 浅野裕子訳

ケアの向こう側

看護職が直面する道徳的・倫理的矛盾 日本看護協会出版会 2002

平井さよ子 改訂版 看護職のキャリア開発

転換期のヒューマンリソースマネジメント 日本看護協会出版会 2009

<講義スケジュール>

1	2013.4.16	火	10:35~12:00	吉田 澄恵	ガイダンス
2	4.23	火	13:00~14:25	佐藤 紀子	看護職のキャリア
3	4.24	水	9:00~10:25	吉田 澄恵	看護職と社会
4	6.15	土	9:00~10:25	佐藤・吉田・草柳 山内・岡田・矢口・土田	早稲田大学・医学部・看護学部 合同生命倫理ワークショップ
5	6.15	土	10:35~12:00	佐藤・吉田・草柳 山内・岡田・矢口・土田	早稲田大学・医学部・看護学部 合同生命倫理ワークショップ
6	7.2	火	13:00~14:25	佐藤 紀子	キャリア発達とキャリア開発
7	7.3	水	13:00~14:25	吉田 澄恵	看護学と看護実践
8	9.9	月	9:00~10:25	佐藤 紀子	チェンジングエージェント
9	10.8	火	13:00~14:25	佐藤 紀子	[自校教育]東京女子医科大学における医療人の養成
10*	10.21	月	9:00~10:25	佐藤・吉田	看護管理学演習 } 管理Aグループ
11*	10.21	月	10:35~12:00	佐藤・吉田	
10*	10.28	月	9:00~10:25	佐藤・吉田	看護管理学演習 } 管理Bグループ
11*	10.28	月	10:35~12:00	佐藤・吉田	
10*	11.6	水	9:00~10:25	佐藤・吉田	看護管理学演習 } 管理Cグループ
11*	11.6	水	10:35~12:00	佐藤・吉田	
12	11.19	火	10:35~12:00	川野 良子	看護管理者としてのビジョンと実践
13	11.27	水	13:00~14:25	佐藤・吉田・ 吉岡・小野・徳重	チーム医療の基礎[協働教育]
14	11.27	水	14:35~16:00	佐藤・吉田・ 吉岡・小野・徳重	チーム医療の基礎[協働教育]
15	12.4	水	10:35~12:00	佐藤 紀子	看護職生涯発達学の研究

[先端医療における看護] (選択科目)

科目責任者 伊藤 景一

科目担当者 伊藤 景一、日沼 千尋、山中 源治、
鈴木 孝司、伊関 洋

目的

保健医療に工学的手法やテクノロジーを持ち込み、従来不可能であった最先端医療が次々と実現される時代になった。本科目は、幅広いテクノロジーと保健医療との融合によって誕生する最先端医療の現状と、新たな看護の役割について教授する。最先端医療技術が次々と生まれている研究所の見学も含め、大きく変わろうとしている最先端医療全体の流れと、診断・治療・手術・看護の将来について学習を深める。

到達目標

1. 最先端医療技術の動向に関して、具体的な例を挙げて説明できる。
2. 先端医療の進展に伴う看護の新しい役割について、自分の考えを述べることができる。

大項目	中項目	小項目
I 最先端医療の動向	1. 医療とテクノロジー 2. 医療安全 3. 手術室支援	1) 医療とテクノロジーの融合 1) 先端医療を医療安全に生かす 1) インテリジェント手術室 2) ロボット手術 3) 情報誘導手術 4) 医療機器開発
II 先端医療における看護マネジメント	1. 先端医療の進展と新しい看護の役割	1) 人工心臓装着と看護のマネジメント 2) 小児移植医療と看護のマネジメント 3) 先端医療と看護倫理
III 先端医療と看護の協働と実践	1. 先端医療との協働に基づく研究と実践	1) 先端医療との協働による看護の研究 2) 基礎研究から臨床実践へのトランスレーション

教科書

使用しない。

参考図書

必要に応じて、担当教員より講義の中で紹介する。

評価方法

試験、出席状況、学習態度について総合的に評価を行う。

<講義スケジュール>

1	2013.10.2	水	13:00～14:25	鈴木孝司	先端医療の動向と医療安全
2	10.7	月	10:35～12:00	鈴木孝司	インテリジェント手術室・ロボット手術・情報誘導手術・医療機器開発
3	10.9	水	13:00～14:25	鈴木孝司 ^{他*}	先端医療最前線：TWIns探検ツアー
4	10.21	月	13:00～14:25	山中源治	人工心臓装着患者の看護マネジメント
5	11.11	月	13:00～14:25	日沼千尋	小児移植医療の最前線と看護マネジメント①
6	11.11	月	14:35～16:00	日沼千尋	小児移植医療の最前線と看護マネジメント②
7	11.18	月	13:00～14:25	伊藤景一	先端医療と看護の学際的協働の可能性
8	11.18	月	14:35～16:00	伊藤景一	試験

*鈴木孝司、伊関 洋

養護教諭一種免許課程

〔教職実践演習（養護教諭）〕（選択科目）

科目責任者：松壽 英士

科目担当者：日沼 千尋、諏訪 茂樹

目的

大学4年間で学んだ学習知と養護実習等で得られた健康教育に関する指導力や生徒指導力の実践知との更なる統合を図り、使命感や責任感に裏打ちされた確かな実践的指導力を有する教員としての資質の構築とその確認を目的とする。

授業は演習形式で行われ、養護実習で直面したさまざまなテーマや養護教諭に求められる役割と責任に関して、実際の教育現場を想定し、学生自らが個人あるいはグループで内容を深め、児童・生徒を指導するためのロールプレイと討議、先輩教師からのコメントを通して学ぶ。

到達目標

養護教諭としての教育的実践力を構成する「社会性と対人関係能力」「児童・生徒理解と保健室経営力」「保健・健康教育に関する指導・教育力」を習得する。

大項目	中項目	小項目
I. 教職実践演習とは	1. 教職実践演習の目的と意義	1. 教職ポートフォリオに基づく自己評価・相互評価から自らの不足している実践力の理解
II. 養護実習における課題	養護実践力	1. 養護教諭としての社会性と対人関係能力 2. 児童・生徒理解と保健室経営 3. 保健・健康教育に関する指導・教育力
III. 教諭を目指す者としての課題	教諭としての実践力	1. 学校教育についての理解 2. 教諭としての使命感や責任感、教育的愛情 3. 生徒指導力

評価方法：授業態度、授業時間における発表およびレポート等により、教諭として最小限必要な資質能力が身に付いているかを確認し、単位認定を行う。

教科書
なし

参考図書
授業中に適時紹介

教職実践演習(養護教諭)

<講義スケジュール>

1	2013.10.7	月	9:00~10:25	松寄英士	オリエンテーション 自己の課題・困難体験・困難事例の振り返り、整理、事例提示準備
2	10.9	水	16:10~17:35	松寄英士他*	生徒指導・健康相談における困難事例の整理と対応法の検討 1
3	10.10	木	16:10~17:35	松寄英士他*	生徒指導・健康相談における困難事例の整理と対応法の検討 2
4	10.11	金	13:00~14:25	松寄英士他*	生徒指導・健康相談における困難事例の整理と対応法の検討 3
5	10.11	金	14:35~16:00	松寄英士他*	生徒指導・健康相談における困難事例の整理と対応法の検討 4
6	10.11	金	16:10~17:35	松寄英士他*	グループによる困難事例の整理と対応法の検討 1
7	10.21	月	14:35~16:00	松寄英士他*	グループによる困難事例の整理と対応法の検討 2
8	10.21	月	16:10~17:35	松寄英士他*	グループによる困難事例の整理と対応法の検討 3
9	10.28	月	16:10~17:35	松寄英士他*	グループによる困難事例の整理と対応法の検討 4
10	10.29	火	14:35~16:00	松寄英士他*	グループによる困難事例の整理と対応法の検討 5
11	10.29	火	16:10~17:35	松寄英士他*	グループによる困難事例の整理と対応法の検討 6
12	11.22	金	13:00~14:25	松寄英士他*	発表（ロールプレイなど）・討議・講評
13	11.22	金	14:35~16:00	松寄英士他*	発表（ロールプレイなど）・討議・講評
14	11.22	金	16:10~17:35	松寄英士他*	発表（ロールプレイなど）・討議・講評
15	11.25	月	16:10~17:35	松寄英士	まとめ・レポート作成

*日沼 千尋、諏訪 茂樹

〔学校保健管理論〕（選択科目）

科目責任者 千葉 まき子

科目担当者 千葉 まき子

目的

学校における保健管理の重要性を理解し、その実際について演習などを通して学ぶ。

到達目標

1. 学校における保健管理と保健教育について理解し、学校組織の中での養護教諭の活動を説明できる。
2. 養護教諭の役割・機能を理解し、学校における健康管理について説明できる。
3. 児童生徒が学校で安全に過ごすための対策、教育について説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 学校保健管理の概 念	1. 学校保健管理とは	1) 学校における保健管理と保健教育および組織活動との相互関係 2) 学校保健行政
	2. 学校保健管理の内容と養護教諭	1) 学校における保健管理の内容 2) 学校保健管理と養護教諭の職務との関連
II. 学校保健管理の実 際	1. 学校保健計画と保健室経営	1) 学校保健計画作成 2) 保健室経営 3) 保健室の管理と整備
	2. 健康観察と健康診断	1) 健康観察記録用紙の作成と活用 2) 健康診断の計画立案
	3. 児童生徒の健康管理と指導	1) 児童生徒の健康課題における管理 2) 指導に係わる養護教諭の役割 3) 指導案の作成
	4. 健康相談	1) 健康相談（教育相談） 2) 教職員の心身の健康状況と健康づくり
	5. 学校保健に関する文書	1) 保健に関する各種文書の種類とその記載方法
	6. 学校保健管理に係わる人々	1) 学校保健管理に係わる関係職員の職務と連携のあり方
	7. 学校における安全管理	1) 事故・災害の現状と安全教育の実際 2) 安全管理の実際 3) 救急処置
	8. 学校における環境衛生と管理	1) 学校環境衛生の考え方と関係法令 2) 学校環境衛生の実際 (1) 学校環境衛生の規準に伴う検査 (2) 環境衛生活動における日常点検と処置

学校保健管理論

評価方法：試験および学習態度やレポートの内容などを総合評価

教科書

教育養成系大学 保健協議会／編	学校保健ハンドブック 第5次改訂	ぎょうせい	2009
--------------------	------------------	-------	------

参考図書

徳山美智子他 編著	改訂 学校保健安全法に対応した学校保健 —ヘルスプロモーションの視点と教職員の役割の明確化—	東山書房	2009
日本学校保健会 編	児童生徒の健康診断マニュアル（改訂版）	日本学校保健会	2006
学校健康教育法令 研究会 監修	学校保健・学校安全法令必携 第6次改訂	ぎょうせい	2009
日本学校保健会 編	学校保健の動向（平成24年版）	日本学校保健会	2012
日本学校保健会 編	保健室経営計画作成の手引き（平成21年版）	日本学校保健会	2009

＜講義スケジュール＞

1	2013.4.12	金	10:35～12:00	千葉まき子	学校保健管理の概念
2	4.12	金	13:00～14:25	千葉まき子	学校保健計画と保健室経営
3	4.16	火	13:00～14:25	千葉まき子	健康観察と健康診断
4	4.16	火	14:35～16:00	千葉まき子	児童生徒の健康管理と指導
5	4.17	水	13:00～14:25	千葉まき子	健康相談
6	4.17	水	14:35～16:00	千葉まき子	学校保健に関する文書 学校における安全管理
7	4.19	金	14:35～16:00	千葉まき子	学校における環境衛生と管理
8	4.19	金	16:10～17:35	千葉まき子	試験

〔養護実習〕（選択科目）

科目責任者 日沼 千尋
 科目担当者 日沼 千尋、松寄 英士、諏訪 茂樹、
 関森みゆき、奥野 順子、青木 雅子、
 櫻田 章子

目的

養護教諭課程の講義や演習等を通して習得した知識と技術を、学校教育現場で実践・応用することを通して、学校保健の専門家としての責任を自覚し、学校保健のあり方を探求するとともに養護教諭の果たす役割について多角的に学習する機会とする。

到達目標

1. 教育活動の一環としての学校保健活動における養護教諭の役割、および保健室のあり方を理解する。
2. 児童・生徒の心身の発達と学校生活の状況、および健康状態を理解する。
3. 児童・生徒の保健・養護上の問題に対して、個別のおよび組織的に適切に取り組む能力を養う。
4. 児童・生徒の養護における課題に関して、探究する姿勢を養う。
5. 児童・生徒に関わる教育者としてふさわしい態度を養う。

大項目	中項目	小項目
I. 養護実習の事前学習	1. 教育実習とは	1) 教育実習全般の意義・目的
	2. 事前準備	1) 養護実習の意義と内容 2) 養護実習の実施計画 3) 実習校の依頼と事前訪問 4) 実習生としての準備や心構え 5) 養護実習の記録 6) 学校において予防すべき伝染病の種類と予防
	3. 実習に必要な技術の演習	1) 定期健康診断の検査項目と検査方法（身体計測、視力・聴力、内科検診、眼科検診、耳鼻科検診、歯科検診） 2) 救急処置(CPR、AED の使い方、日常的な怪我の手当)
	4. 模擬授業の準備・実施・評価	1) 模擬授業準備 2) 模擬授業実施・評価
II. 日常養護活動の実際	1. 保健室の経営	1) 保健室の規模・構造の理解 2) 保健室内の機能分担に対する理解 3) 保健室経営計画に対する理解 4) 保健室経営の実際
	2. 救急処置	1) 救急処置基準に対する理解 2) 救急処置の実際
	3. 健康観察	1) 健康観察に対する理解 2) 健康観察・健康検診の実施状況に対する理解 3) 健康観察の実際

大項目	中項目	小項目
III. 日常保健活動の実際	4. 伝染病対策	1) 学校伝染病に対する理解 2) 伝染病対策の実際
	5. 健康相談活動	1) 保健相談およびヘルスカウンセリングに対する理解 2) 保健相談およびヘルスカウンセリングの実際
	6. 個別的保健指導	1) 個別的保健指導に対する理解 2) 個別的保健指導の実際
	7. 保健室登校の児童・生徒の指導	1) 保健室登校の児童・生徒に対する理解 2) 保健室登校の児童・生徒の指導の実際
	8. 障害をもつ児童・生徒の指導	1) 障害をもつ児童・生徒に対する理解 2) 障害をもつ児童・生徒の指導の実際
	1. 保健学習活動	1) 保健学習活動に対する理解 2) 保健学習活動の実際
	2. 学級保健指導	1) 学級保健指導に対する理解 2) 学級保健指導の実際
	3. 児童・生徒自治活動の指導	1) 児童・生徒自治活動に対する理解 2) 児童・生徒自治活動の指導の実際
IV. 保健関係行事の実際	4. 保健だよりの作成	1) 保健だよりに対する理解 2) 保健だよりの作成の実際
	5. 環境衛生活動	1) 環境衛生活動に対する理解 2) 環境衛生活動の実際
	6. 学校保健事務	1) 学校保健事務に対する理解 2) 学校保健事務の実際
	1. 定期健康診断	1) 定期健康診断に対する理解 2) 定期健康診断の実際
	2. 臨時健康診断	1) 臨時健康診断に対する理解 2) 臨時健康診断の実際
	3. 学校医・学校歯科医等による健康相談	1) 学校医・学校歯科医等により健康相談に対する理解 2) 学校医・学校歯科医等により健康相談の実際
V. 養護実習のまとめ	4. 疾病予防の行事	1) 疾病予防の行事に対する理解 2) 疾病予防の行事の実際
	5. 学校行事に伴った保健活動	1) 学校行事に伴った保健活動に対する理解 2) 学校行事に伴った保健活動の実際
	1. 養護実習の事後評価	1) 実習校での指導教官との懇談 2) 実習の成果と課題の確認
	2. 実習報告会	1) 養護教諭の役割に関する学びの発表

評価方法：出席状況、実習内容（事前学習・実習校における実習・実習のまとめ）、記録内容、実習態度（実習への取り組み、主体性、計画性、責任感など）

教科書

大谷尚子 中桐佐智子編著 養護実習ハンドブック

東山書房

2004

参考図書

適時紹介

養護実習

<実習スケジュール>

【養護実習の事前学習】

1	4月10日(水) 9:00~10:00	実習オリエンテーション	
		実習校事前訪問	個別に学生自身が調整する
2	4月13日(土) 9:00~10:25	【事前準備】 事前準備の小項目1)~6) 参照	学生は自主的・計画的に各自で 実習の事前準備に取り組む
3	4月13日(土) 10:35~12:00		
4	4月13日(土) 13:00~14:25		
5	4月13日(土) 14:35~16:00		
6	4月13日(土) 16:10~17:35		
7	4月18日(木) 9:00~10:25		
8	4月18日(木) 10:35~12:00		
9	4月20日(土) 9:00~10:25		
10	4月20日(土) 10:35~12:00		
11	4月20日(土) 13:00~14:25		
12	4月20日(土) 14:35~16:00		
13	4月20日(土) 16:10~17:35		
14	4月22日(月) 13:00~14:25	【模擬授業準備】	決められたグループで、模擬授業 の準備を行う
15	4月22日(月) 14:35~16:00		
16	4月22日(月) 16:10~17:35		
17	4月24日(水) 10:35~12:00		
18	4月24日(水) 13:00~14:25		
19	4月24日(水) 14:35~16:00		
20	4月24日(水) 16:10~17:35		
21	4月25日(木) 9:00~10:25		
22	4月25日(木) 10:35~12:00		

【実習校における養護実習】

	5月7日(火)~ 6月28日(金) の内、連続して3週間	実習校における養護実習	実習スケジュールは実習校の指示 に従う
--	---------------------------------	-------------	------------------------

【養護実習のまとめ】

23	9月14日(土) 10:35~12:00	実習報告会準備・資料作成	決められたグループで、実習報告 会の準備を行う
24	9月14日(土) 13:00~14:25		
25	9月14日(土) 14:35~16:00		
26	9月21日(土) 10:35~12:00		
27	9月21日(土) 13:00~14:25		
28	9月21日(土) 14:35~16:00		
29	9月30日(月) 9:00~10:25	【実習報告会】	123 教室
30	9月30日(月) 10:35~12:00		

〔日本国憲法〕

科目責任者 西田 幸典

目的

日本国憲法が示す日本のあるべき姿を理解し、教員としての素養を培うことを目的とする。

(本科目は、主として、養護教諭1種免許状を取得するための必須科目としての位置づけである。)

到達目標

1. 日本国憲法の基本原理を理解することができる。
2. 医療・福祉に関連する憲法問題が争われた判例について、概要・争点・私見をまとめることができる。

大項目	中項目	小項目
I. 憲法とは	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歴史的背景 2. 明治憲法 3. 日本国憲法 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 近代憲法、現代憲法 1) 欽定憲法など 1) 制定時の背景 2) 日本国憲法の全体像
II. 国民主権	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国民主権 2. 選挙 3. 象徴天皇制 4. 地方自治 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 主権者として 2) 機関として 1) 国政選挙 1) 地位、国事行為、内閣の助言・承認 1) 地方自治の歴史、原理 2) 地方公共団体の機関と権能
III. 平和主義	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原理 2. 日本国憲法9条 3. 戦争放棄と自衛権 4. 国際協調 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自衛隊 1) 国連活動
IV. 基本的人権の保障	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人権尊重の原理 2. 人権の体系 3. 自由権 4. 社会権 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 人権の歴史 2) 一般原則 3) 国民の義務 1) 類型 2) 法の下での平等 3) 新しい人権（幸福追求権） 1) 自由権の構造 2) 精神、人身、経済活動の自由 1) 社会権、受益権
V. 三権分立	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国会（立法権） 2. 内閣（行政権） 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 国会の権能 2) 衆議院・参議院 3) 国会議員 4) 議院の権能 1) 議院内閣制 2) 内閣の組織、権能

日本国憲法

大項目	中項目	小項目
VI. 判例	3. 裁判所（司法権）	1) 司法権の独立 2) 裁判所の組織 3) 違憲審査制
	1. 最高裁判所の判例	1) 医療・福祉に関連する判例

成績評価の方法：レポートやグループワークの取り組みによって評価する。欠席は減点の対象とする。

教科書

笠井正俊_他編 岩波セレクト六法 平成25年版 岩波書店 2012

参考図書

伊藤正巳	憲法入門 第4版補訂版	有斐閣	2006
渋谷秀樹、赤坂正浩	憲法1 人権 第4版	有斐閣	2010
渋谷秀樹、赤坂正浩	憲法2 統治 第4版	有斐閣	2010
戸松秀典、初宿正典 編	憲法判例 第6版	有斐閣	2010
高橋和之 _他 編	憲法判例百選Ⅰ 第5版	有斐閣	2007
高橋和之 _他 編	憲法判例百選Ⅱ 第5版	有斐閣	2007
判例六法編修委員会編	模範六法 2013	三省堂	2012
判例六法編修委員会編	模範小六法 2013	三省堂	2012

<講義スケジュール>

1	2013. 4.20	土	9:00～10:25	西田 幸典	日本国憲法の概観
2	4.20	土	10:35～12:00	西田 幸典	憲法とは
3	4.27	土	9:00～10:25	西田 幸典	国民主権
4	4.27	土	10:35～12:00	西田 幸典	国民主権
5	5.11	土	9:00～10:25	西田 幸典	国民主権
6	5.11	土	10:35～12:00	西田 幸典	平和主義
7	5.25	土	9:00～10:25	西田 幸典	平和主義
8	5.25	土	10:35～12:00	西田 幸典	基本的人権
9	6. 1	土	9:00～10:25	西田 幸典	基本的人権
10	6. 1	土	10:35～12:00	西田 幸典	基本的人権
11	6.15	土	9:00～10:25	西田 幸典	基本的人権
12	6.15	土	10:35～12:00	西田 幸典	三権分立
13	7. 4	木	9:00～10:25	西田 幸典	三権分立
14	7. 4	木	10:35～12:00	西田 幸典	三権分立
15	7.20	土	10:35～12:00	西田 幸典	試験

授業担当教員一覧

看護学部第4学年授業担当教員

[専任教員]

人文社会科学系		
心理学	准教授	松寄 英士
社会学	准教授	諏訪 茂樹
英語	教授	木村みどり
基礎科学系		
生理学	准教授	神山 暢夫
生化学	准教授	伊東 栄子
臨床医学系		
外科学	准教授	尾崎 恭子
内科学	教授	荒井 純子
看護学系		
基礎看護学	教授	守屋 治代
	准教授	菊池 昭江
	講師	見城 道子
	講師	加藤 京里
	助教	味木 由佳
	助教	天野 陽子
成人看護学	教授	下平 唯子
	准教授	金子真理子
	准教授	近藤 暁子
	講師	原 三紀子
	講師	落合 亮太
	講師	益田美津美
	助教	三浦美奈子
	助教	原 美鈴
	助教	小林 礼実
	助教	鈴木香緒理
看護職生涯発達学	教授	佐藤 紀子
	准教授	吉田 澄恵
老年看護学	教授	水野 敏子
	講師	小山千加代
	講師	坂井 志麻
	助教	原沢のぞみ
	助教	成澤 明
小児看護学	教授	日沼 千尋
	准教授	関森みゆき
	講師	奥野 順子
	講師	青木 雅子
	助教	櫻田 章子
母性看護学	教授	小川久貴子
	講師	竹内 道子
	講師	原田 通予
	講師	宮内 清子
	助教	飯塚 幸恵
	助教	井上 友里
	助教	田幡 純子
地域看護学	教授	柳 修平
	教授	伊藤 景一
	准教授	中田 晴美
	講師	服部真理子
	講師	犬飼かおり
	助教	遠藤 直子
	助教	清水 信輔

精神看護学	教授	田中美恵子
	講師	小山 達也
	講師	嵐 弘美
	助教	異儀田はづき
	助教	飯塚あつ子
	講師	草柳かほる
	助教	山内 英樹

認定看護師教育センター

[兼任教員]

疫学	教授	山口 直人
	教授	岡本 高宏
	講師	佐藤 康仁
	准講師	清水 悟
	准講師	蔣池 勇太
	助教	清原 康介
	助教	福島 教照
	助教	古島 大資
医学特論	教授	齋藤加代子
	教授	上塚 芳郎
	教授	木林 和彦
	准教授	菅野 仁
英語Ⅲ	講師	遠藤 美香
国際関係論	教授	遠藤 弘良
	講師	塚原 高広
	助教	櫻井 美樹
リエゾン精神看護	臨床講師	山内 典子
	臨床講師	安田 妙子
キャリア発達論Ⅳ	講師	川野 良子
先端医療における看護	教授	伊関 洋
	臨床講師	山中 源治
	助教	鈴木 孝司

[兼任教員]

女性論	講師	山村 直子
人間援助論Ⅱ	講師	水野修次郎
医療行政・関係法規	講師	西田 幸典
	講師	木原 章子
文化人類学	講師	宍戸 佳織
人間生活と法	講師	東 裕
コミュニケーション	講師	川上 華代
の理論と実際Ⅱ	講師	大島みどり
パフォーマンス芸術論	講師	中川 聖子
リエゾン精神看護	講師	西川 律子
学校保健管理論	講師	千葉まき子
母性看護学	講師	中北 充子

[医学部・看護学部協働教育 担当教員]

化学	教授	岡田みどり
救命救急センター	准教授	矢口 有乃
医学教育学	教授	吉岡 俊正
内科学(第二)	講師	小野 昌美
消化器内科学	講師	徳重 克年
小児科学	教授	大澤真木子
遺伝子医療センター	教授	齋藤加代子
非常勤講師		土田 友章

